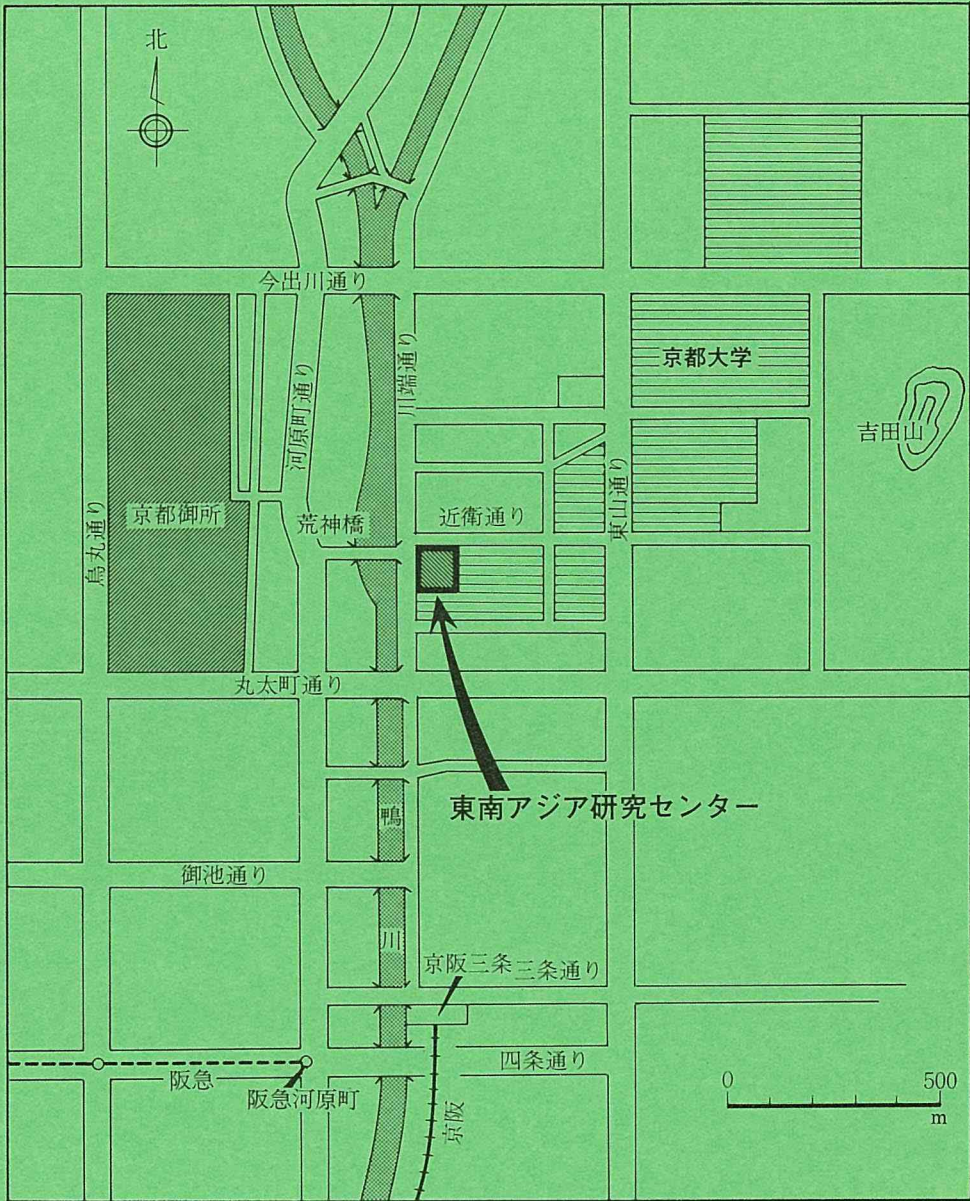


京都大学  
東南アジア研究センター要覧

昭和54年度版



所在地付近の略図



京都大学東南アジア研究センター  
〒606 京都市左京区吉田下阿達町46  
電話 075-751-2111 (内)7302~7305

## ま え が き

本報告書は、創設から昭和53年前半に至る16年間の当センターの研究と運営の実状を説明したものであります。機関誌の『東南アジア研究』も、今年に入って16巻1号まで刊行され、又和英両文の叢書の刊行などによって、ようやく当センターの存在も内外に知られるようになりました。先に1973—76年については英文の報告書を取りまとめましたが、その後の活動について尋ねられることが多いので、この報告書をまとめて、その要望にお答えしたいと思います。併せて当センターの研究活動その他に対し、今後とも暖かく厳しく御教導あらん事をお願い致します。

昭和53年10月1日

京都大学東南アジア研究センター

所長 市 村 真 一

## 目 次

第1章	性格と沿革	1
第2章	機構と組織	4
	(1) 機構	
	(2) 協議員	
	(3) 職員	
	(4) 海外連絡事務所	
	(5) 研究担当教官	
	(6) 学外研究参加者	
第3章	研究活動	11
	(1) 出版	
	(2) 調査・研究	
	(3) シンポジウム・国際会議	
	(4) 国際交流	
	(5) 研究会	
	(6) 東南アジアセミナー	
	(7) 資料蒐集	
第4章	研究スタッフ	29
第5章	出版目録	37
	(1) 東南アジア研究叢書（和文・英文）	
	(2) シンポジウム報告書	
	(3) 『東南アジア研究』	
	(4) リプリント・シリーズ	
	(5) ディスカッション・ペーパー	

## 第1章 性格と沿革

京都大学東南アジア研究センターは、東南アジアおよびその周辺諸国を総合的に研究することを目的として設立された特色ある研究機関である。東南アジアとは、ベトナム・ラオス・カンボジア・タイ・ビルマ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピンの9カ国をさすが、研究の対象としては、厳密にこの範囲に限定しているわけではない。仏教の研究のためスリランカをふくめ、熱帯稲作の研究のためバングラデシュ・インドにまで手をのばし、対外経済活動の研究のためには香港・台湾・韓国をも対象としたこともある。周辺諸国というのは、この意味である。

我々の研究方法は、欧米の「地域研究」Area Study とくらべて、東南アジアの自然環境的諸要因の自然科学的研究をもふくむ点において、人文科学とくに人類学と政治学を中心とする欧米の研究手法とは異なる特色をもっている。この意味で我々は自らこのような研究態度を「総合的地域研究」Integrated Area Research と呼ぶことがある。さらに当センターは、上述の学際的研究方法に加えて、その研究対象の力点を近代以降の東南アジアにおき、かつ文献解釈的研究よりは現地調査を重視して、現在の生々として活動し、変転している東南アジアの学問的理解と解明に貢献することを期している。

近隣のアジア諸国とわが国との学術文化の交流が深まるにつれて、当センターが地域研究の中心として果すべき役割への期待はいよいよ高まりつつあるが、その要請にこたえるため、当センターとしては、東南アジア諸国の学者・文化人はもちろん、東南アジア研究に関心をもつ世界の学者との不断の交流につとめている。そして同時に東南アジアに関する雑誌・資料の蒐集交換を行い、それらをひろく内外の学者に利用してもらえるような体制を整備しつつある。学問研究の国際交流は、これからの日本にとっての大きな課題であるが、とくに近隣の東南アジアの基礎的研究を志向している当センターは、この先達でありたい。

東南アジア研究センターが、京都大学に正式に設置されたのは、1965年のことであるが、それ以前より本学には東南アジアの文化と社会の諸問題に強い関心をもつ一群の研究者があり、1958年の春には、早くも東南アジア研究のセミナーが非公式に発足していた。このセミナーは次第に京都大学や近隣諸大学の教官・大学院学生の関心を集め、やがて月例研究会に発展、さらに東南アジア研究の一層の推進のため、正式な研究組織をつくる必要が感じられ始めた。このため1961年に3名の研究者よりなるチームが、6カ月にわたってアジ

ア・ヨーロッパ・アメリカにおける東南アジア研究の機関や教育プログラムの実情を視察し、詳細な報告書を提出、この報告書に基づき、本学に東南アジア研究を推進する研究機関を設立するための準備委員会が発足した。その結果1963年1月には、本学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設けられ、初めて学内共同利用的施設ないし研究活動の調整の場としての当センターの萌芽を見るに至った。このセンターの初代所長は、ほどなく総長に就任された奥田東農学部長であったが、次代の堀江保蔵教授をへて、やがて岩村忍教授が1964年から1967年に至る3年間所長をつとめられてセンターの基本構想が固ったと言える。それがセンターの性格として上述したところに他ならない。

センターは、学内措置として創設せられた当時は、もっぱら民間からの寄付金とフォード財団からの研究奨励金を委任経理金として受入れ、それによって多数の本学教官を東南アジア各地の現地調査に派遣した。その研究活動の中心は、タイ計画とマレーシア計画という二つの総合調査であった。それは人類学者による村落定着調査から、農学者による熱帯稲作の諸条件の研究に至るまで、極めて多岐にわたったが、常に現地に密着し、現地の研究者と協働して研究を進めるという態度を失わないように留意してきた。このため当初よりバンコクに連絡事務所を置き、現地の当局、研究者との交渉、連絡に当らせてきた。これらの研究の成果は、1963年に創刊された『東南アジア研究』に次々と発表され、内外の学者の注目を浴びるに至った。

この成果に対する評価は、この研究センターが、1965年4月に大学設置法施行規則の改正による全国で初めての「研究センター」として、京都大学の正式の研究機関と認められた事によって確定したと言えよう。それより逐年研究部門の増加を認められ、1978年度現在では9部門（客員部門1をふくむ）、教授10（客員教授相当2をふくむ）、助教授9、助手11（客員助手相当2をふくむ）の定員を持つ研究組織に成長した。特にこの客員部門は、東南アジアよりの研究者を、センターの客員研究員として迎えるもので、この種の国際交流のための部門の設置は全国で最初の試みである。

1965年正式設置が認められた時の所長は、当時人文科学研究所の岩村忍教授の兼任であり、1967年度は教育学部の相良惟一教授の兼任であったが、1968年度には東南アジア研究センターの市村真一教授に引きつがれた。この年、研究センターがそれまで管理委員会と運営委員会によって運営されて来た規約を改め、学内の付置研究所に準じる「協議員会規定」を定め、それによって初めて任期を3年とする所長が選任せられることとなった。1969年度以降3年ごとに改選をして、今日に至っている。現在の研究センターは、教授・助教授

の人事，年々の予算の概算要求，現地調査費の配分等の重要事項の審議決定は，この協議員会によっており，その協議員は全学の関係学部研究所より選任された教授もしくは助教授を所長が委嘱している。その他通常のセンターの重要事項の審議決定は「教授会」，日常の運営に関する細部の打合せは「所員会議」の相談によっている。

1969年は，大学紛争の火がセンターの周辺にもとび散っていたが，こうした体制が整備されると共に，1970年から新しくインドネシア計画も開始され，またジャカルタに新しい連絡事務所も設けられた。その成果は，国立社会経済研究所や中央統計局との協力による「南スマトラ州総合調査」や「インドネシア産業連関表」の完成などに見られる。これらの報告は，英語とインドネシア語の双方で公表されて，その後の各種の研究の基礎となっている。

当センターは，創設の当初以来和英両方の研究叢書の出版を行って，研究成果を内外に問うて来ているが，1970年以降，邦文の方は創文社に，英文の方は University Press of Hawaii に出版を依頼して公刊している。また『東南アジア研究』も内外の大学その他の研究機関と交換しているばかりでなく，財団法人アジア研究協会（理事長 奥田 東）に依頼して，一般に購読してもらう道をひらいている。

1969年にセンターのバンコクの現地連絡事務所が，次いで73年にジャカルタの連絡事務所の運営経費が国の予算として認められていると共に，現地調査費も国の予算で認められ，ようやく当センターの現地調査を計画的に推進する最少限の基礎が与えられるようになった。それ以来センターでは，この予算を活用して，大学内の「研究担当教官」による東南アジア研究を実質的に支援できるようになりつつある。また1978年度から「非常勤講師経費」を認められた事により，「学外研究参加者」が積極的に研究参加できる機会を提供できるようになった。

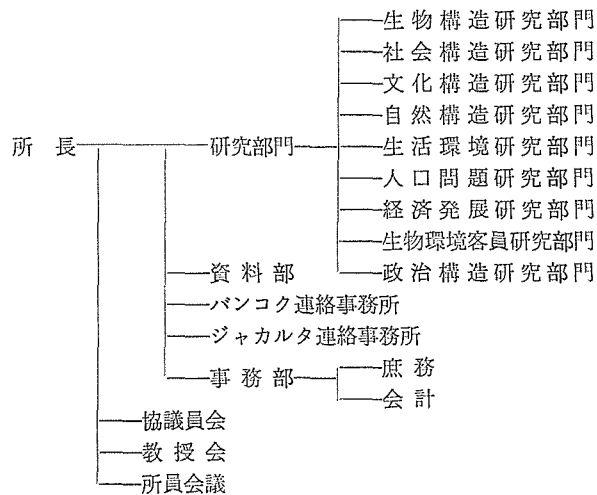


## 第2章 機構と組織

- (1) 機構
- (2) 協議員
- (3) 職員
- (4) 海外連絡事務所
- (5) 研究担当教官
- (6) 学外研究参加者

### (1) 機構

1978年度現在、東南アジア研究センターは、9研究部門（客員研究部門1を含む）および1資料部からなり、また東南アジア地域の現地調査を円滑に行なうための海外連絡事務所として、タイ国にバンコク連絡事務所を、インドネシアにジャカルタ連絡事務所を設置している。事務部は庶務・会計の2掛に分かれ、それぞれ業務を担当している。また、本センターの議決機関・協議機関として、協議員会、教授会、所員会議が設けられている。以上を表示すれば次の通りである。





## (2) 協 議 員

協議員会は、センターの運営に関する最高議決機関であり、センターおよび各学部・研究所より選任された教授または助教授に対しセンター所長が委嘱した（東南アジア研究センター）協議員によって構成されている。

1978年度の協議員は次の通りである。

### 東南アジア研究センター協議員 (1978年6月1日現在)

文学部	教 授	中 久 郎
法学部	教 授	勝 田 吉太郎
理学部	教 授	岩 槻 邦 男
医学部	教 授	西 占 貢
薬学部	教 授	田 端 守
工学部	教 授	港 種 雄
農学部	教 授	丸 山 利 輔
教養部	教 授	熊 本 水 頼
人文科学研究所	教 授	吉 田 光 邦
結核胸部疾患研究所	教 授	寺 松 孝
木材研究所	教 授	越 島 哲 夫
防災研究所	教 授	中 島 暢太郎
ウイルス研究所	助教授	徳 田 正 夫
経済研究所	教 授	森 口 親 司
東南アジア研究センター	所 長	市 村 真 一
同	教 授	小 林 和 正
同	教 授	石 井 米 雄
同	教 授	安 場 保 吉
同	教 授	水 野 浩 一
同	教 授	高 谷 好 一
同	教 授	矢 野 暢
同	教 授 (兼任)	渡 部 忠 世
同	助教授	坪 内 良 博

## (3) 職 員

センターの職員は、(イ) 研究部、(ロ) 資料部 (図書室, 編集室, 計算機室), (ハ) 事

務部に分かたれる。1979年1月1日現在の職員は、次の通りである。

(イ) 研究部

所長	市村真一	後進国発展論
教授	市村真一	後進国発展論
	小林和正	人口学
	石井米雄	東南アジア史，南方上座部仏教比較論
(併任)	安場保吉	経済発展論
	渡部忠世	作物学
	水野浩一	社会人類学
	高谷好一	自然地理学
	矢野暢	政治発展論
助教授	坪内良博	社会構造の比較
	吉原久仁夫	経済発展論
	海田能宏	農業水文学
	福井捷朗	農業立地学
	前田成文	文化人類学
	江崎光男	経済発展の計量分析
	三谷恭之	東南アジア言語学
	土屋健治	インドネシア現代史
	古川久雄	土壌地理・生成
助手	山田勇	森林生態学
	山影進	国際関係論
	桜井由躬雄	ベトナム社会経済史
	安成哲三	気象学
客員部門	Narong Thiramongkol	地形発達史学
	Thak Chalocmtiarana	タイ国現代史
	Kusunadi	結核制御の研究

(ロ) 資料部

編集室	助手	鈴木静夫
		奥野有子
図書室	助手	北野康子
		岩本祥子
計算機室	助手	安田聖

(ハ) 事務部

事務長		人見輝雄
-----	--	------

庶務掛	掛長	吉田孝弘
		米沢真理子
		村田慶之亮
		山本重夫
		二股房子
		作野加代子
会計掛	掛長	渡辺孝三
		木田康夫
		坂本猛司
		津田充代

#### (4) 海外連絡事務所

##### (イ) バンコク連絡事務所

バンコク連絡事務所（所在地，85/4 Wireless Road, Bangkok, Thailand）は，1963年10月に開設されて以来，4度にわたって駐在地の変更があったが，この間，のべ22名が駐在，任に当った。

歴代の連絡事務所駐在員は，次の通りである。

本岡	武	1963年10月～1964年3月
飯島	茂	1964年4月～1964年5月
相良	惟一	1964年6月～1964年9月
本岡	武	1964年10月～1965年1月
飯島	茂	1965年1月～1965年6月
寺松	孝	1965年7月～1965年8月
飯島	茂	1965年8月～1965年9月
本岡	武	1965年10月～1966年3月
飯島	茂	1966年3月～1966年6月
石井	米雄	1966年6月～1967年4月
福井	捷朗	1967年4月～1969年4月
海田	能宏	1969年4月～1970年3月
三谷	恭之	1970年3月～1971年6月
安場	保吉	1971年6月～1972年5月

福井 捷朗	1972年 5 月～1972年 9 月
水野 浩一	1972年 9 月～1973年 3 月
辻井 博	1973年 4 月～1974年 4 月
海田 能宏	1974年 4 月～1974年 5 月
辻井 博	1974年 5 月～1974年10月
海田 能宏	1974年10月～1976年10月
石井 米雄	1976年10月～1976年12月
海田 能宏	1976年12月～1977年10月
山田 勇	1977年10月～1977年11月
矢野 暢	1977年11月～1978年 1 月
桜井由躬雄	1978年 1 月～1978年10月

#### (ロ) ジャカルタ連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所（所在地、Jalan Rajasa 3/No. 3, Kebayoran Baru, Jakarta Selatan, Jakarta, Indonesia）は、1970年10月に所在地に開設され、以来のべ12名が駐在の任に当った。

歴代の連絡事務所駐在員は、次の通りである。

西原 正	1970年 5 月～1972年 4 月
飯田 経夫	1972年 5 月～1973年 4 月
西村 博行	1973年 5 月～1973年11月
矢野 暢	1973年11月～1974年 2 月
坪内 良博	1974年 2 月～1974年 4 月
野上 裕生	1974年 4 月～1975年 4 月
土屋 健治	1975年 4 月～1975年 7 月
坪内 良博	1975年 7 月～1976年 6 月
前田 成文	1976年 6 月～1976年 9 月
山田 勇	1976年 9 月～1976年10月
小林 和正	1976年10月～1977年 3 月



## (5) 研究担当教官

当センターは、東南アジア研究に関心をもつ学内各学部・研究所の教官に、研究担当教官として参加を委嘱している。

1978年度において、これらの学内研究担当教官数は、153名を数えるが、その学部、研究所等の内訳は、以下の通りである。

### 研究担当教官

教育学部	1名	法学部	5名
理学部	5	医学部	9
医学部附属病院	1	薬学部	4
工学部	17	農学部	52
農学部附属演習林	1	教養部	13
化学研究所	1	人文科学研究所	3
結核胸部疾患研究所	7	木材研究所	8
食糧科学研究所	1	防災研究所	11
ウイルス研究所	1	経済研究所	2
霊長類研究所	9	体育指導センター	1
農学部附属農場	1		
		計	153

## (6) 学外研究参加者

当センターは、総合的に地域研究を実施するため、東南アジア地域の研究に関心をもつ全国各地の大学・研究機関等の研究者に、研究参加を仰いでいる。

1978年度において、これら研究参加者は、143名を数えるが、その専科別内わけは、次の通りである。

### 学外研究参加者

総合	28名	人類学	10名
社会学	9	歴史	18
政治	10	農学	10
地理	10	医学・薬学	10

理学	9	経済	10
農経および人口論	10	水文その他	9
		計	143

## 第3章 研究活動

- (1) 出版
- (2) 調査・研究
- (3) シンポジウム・国際会議
- (4) 国際交流
- (5) 研究会
- (6) 東南アジアセミナー
- (7) 資料蒐集

### (1) 出版

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は、センターが刊行する出版物を通じて発表されている。

センターでは、1963年以来『東南アジア研究』（年4回刊行）を出版しているほか、和文・英文の叢書、リプリント・シリーズ、ディスカッション・ペーパー等を刊行している。これらの叢書及び論稿は、第8章出版目録に、その一覧を掲げてあるので、御参照いただきたい。

### (2) 調査・研究

センターの研究活動は個別研究と共同研究に大別される。現在のセンター所員の主要な個別研究は、第4章「研究スタッフ」現在の研究テーマの項に見る通りである。共同研究は様々なものが行われるが、自然科学者と人文社会科学者の共同による総合的研究が重視される。

#### 現地調査

個別研究、共同研究とも主として現地調査に基づいて行われ、共同研究にはセンター所員のみならず、学内および学外の研究者にも広く協力を求め研究参加を委嘱している（学内研究担当教官、学外研究参加者）。

東南アジアおよびその周辺地域の現地調査研究のためにセンターが派遣した研究者は、1963年度から1978年度（5月まで）の間に延べ494人に及んでいる。その研究分野は、宗

教学, 人類学, 社会学, 歴史学, 言語学, 人口学, 教育学, 経済学, 政治学, 農業経済学, 農学, 農業土木学, 土壌学, 地質学, 古生物学, 生物学, 森林生態学, 医学, 薬学, 等々多岐にわたっており, またその多くは総合的な共同研究の一部として派遣されたものである。

## 共同研究

現在までに終結あるいは現在進行中の共同研究のうち比較的規模の大きいものには, 以下の共同研究がある。(\*印は, プロジェクトとしては完了したもの)。

### \*1. タイ地域研究

次のマレーシア地域研究とともに, センター発足以来「コア・プロジェクト」としてセンター研究活動の中心的な共同研究であったもので, 農業経済学, 人類学, 社会学, 政治学の各専門家のタイ国における現地調査研究を中心に, 他の人文社会科学および自然科学の個別研究とも関連して行われた総合的な共同研究である。

### \*2. マレーシア地域研究

同じく当初センターの「コア・プロジェクト」であったもので, 社会学者, 人類学者が農学, 土壌学, 農業土木学, 医学等の専門家の協力をえて行ったマレーシア稲作社会の現地調査研究である。1967年以降マレーシア大学との共同研究も行われた。

### \*3. 南スマトラの経済調査

LEKNAS (インドネシア共和国社会経済研究所) との共同研究として実施され, 南スマトラの地域経済・農家経済の特徴を明らかにするとともに, 地域発展に必要なデータの提出を目的とした共同研究である。

### \*4. 工業化が首都近郊農村に与える影響

現在の工業化が首都近郊の農村社会にどのような社会的・経済的影響を与えるかについて, タイ・マレーシア・インドネシア・フィリピンにおいて人類学者と各国の専門家が共同研究を行ったもの。

### \*5. 東南アジアの自然と人間

近代化の過程において東南アジア熱帯地域の社会変容が気候, 地形, 植生, 土壌などの環境条件にどのように規定されるかという問題の解明を目的とした自然科学者と社会科学者の共同研究。



**\*6. タイ国低地土壌の生産力調査**

土壌学者と地質学者がタイ国各地域の低地で土壌・地質を資料蒐集、分析し、各地域の土壌の生産力に関する評価を行なったもの。

**\*7. 東南アジアの民族独立運動**

文部省科学助成金による共同研究で、1941～57年における東南アジア諸国の民族独立運動の構造を、その政治思想と社会文化構造の分析を通じて明らかにしようとしたもの。

**\*8. メコン・デルタの農業環境調査**

メコン委員会との共同プロジェクトとして、農学・土壌学・社会学・人類学・農業経済学の各専門家が、ベトナムのメコン・デルタ地帯における自然・社会・経済と農業との関連を明らかにしようとした共同研究。

**\*9. イラワジ・デルタの農業環境調査**

同じく自然条件と農業との関連をビルマのイラワジ・デルタ地帯について明らかにしようとしたもの。

**\*10. 東マレーシアにおける潜在農業生産力調査**

土壌学・地形学・農学・農業土木および農業機械の専門家がサラワクにおいて、その潜在農業生産力の調査を行なった共同研究。

**\*11. インドネシア経済の投入産出分析**

センターと LEKNAS の共同プロジェクトとして日本、インドネシアの両国から経済学者が参加し、インドネシア経済の投入産出表を作製、それに基づき、インドネシア経済の分析を行なったもの。

**\*12. 気候変化が農業生産に及ぼす影響**

International Federation of Institutes for Advanced Studies の「気候が人間に与える影響」プロジェクトの一部として、農業経済学者と農業気象学者が中心となって東南アジア、南アジア、東アジアの各地で行なった研究。

**\*13. ‘緑の革命’と農村開発**

東南アジア諸国における新品種・新技術普及の障害要因、農村開発における教育の役割、および障害克服のための方策の究明を目的とした自然科学者と社会科学者の学際的共

同研究。

#### **14. 東南アジア稲作社会におけるイスラムの役割**

インドネシア稲作社会におけるイスラムの役割に関して、社会学者を中心に地質学，農学，農業経済学など多分野の専門家が，環境・技術・経済・社会・文化など種々の角度から総合的に解明しようとする共同研究。

#### **15. 東南アジアにおける人口圧力，家族周期と社会構造**

インドネシア，マレーシア，タイ，フィリピンおよび日本の農村についての比較研究で，家族の人口学的再生産の結果と農地の所有・相続等との関係を人口の留村と離村とに焦点をあてて研究しようとするものである。

#### **16. アジア地域における文化摩擦**

文部省科学研究費（特定研究）による共同研究の一部をなすもので，次の3つのプロジェクトが進行中である。

##### **(1) 異民族支配と文化摩擦**

ビルマ・タイ・マラヤおよび日本に対するビクトリア朝英国人の考え方を中心として，植民地支配のアジア人に対する見方と，それより生ずる文化摩擦を解明しようとするものである。

##### **(2) 日本人の南方関与と文化摩擦**

日本人の南方関与に関する一次資料の蒐集と，社会・経済・心理的要因に関連して，文化摩擦の理論から日本人の南方関与の様式を分析しようとするもの。

##### **(3) 経済発展と文化摩擦**

主要アジア諸国における，外国資本・技術による経済発展がもたらす文化摩擦と社会的緊張の解明とその解決策の模索を目的とする共同研究である。

#### **(3) シンポジウム・国際会議**

東南アジア地域研究に関して内外の研究者とより広く意見を交換するため，これまでに次の7つのシンポジウムが，センターの主催または他機関との共催で開かれた。

##### **1. マラヤ稲作シンポジウム（京都，1964年9月）**

農林省，海外技術協力団との共催により，60余名の専門家が参加，マラヤを中心に東南

アジアの稲作に関する多数の専門的な問題が討論された。

出版：Rice Culture in Malaya (CSEAS Symposium Proceedings I), Kyoto, 1965.

『東南アジア研究』2巻3号：マラヤ稲作シンポジウム特集号(1965)。

## 2. 東南アジアにおける日本の将来(京都, 1965年6月)

最初のセンター主催の国際シンポジウムで、各国より21名の政治学者が参加、当時、東南アジア諸国が直面した諸問題を、日本の役割に焦点を当てつつ討議された。

出版：Masamichi Inoki (ed.), *Japan's Future in Southeast Asia* (CSEAS Symposium Proceedings II), Kyoto, 1966.

## 3. 東南アジアにおける水資源の利用(京都, 1965年9月)

農林省、海外技術協力団との共催により、約60名の専門家が参加、東南アジアの水利用開発計画、水文、灌漑、排水と農業などの専門的・技術的問題が討論された。

出版：『東南アジア研究』3巻4号：水資源利用に関するシンポジウム特集(1966)。

Yoshikazu Fujioka (ed.), *Water Resource Utilization in Southeast Asia* (CSEAS Symposium Proceedings III), Kyoto, 1966.

## 4. 東南アジア医学シンポジウム(京都, 1966年10月)

厚生省、海外技術協力団との共催により、約100名の専門家が参加、寄生虫・ウィルス性疾患・性病・結核の4部会に分かれて、東南アジアの医学的問題が討論された。

出版：『東南アジア研究』4巻4号：東南アジア医学シンポジウム特集号(1967)。

Noboru Higashi (ed.), *Medical Problems in Southeast Asia* (CSEAS Symposium Series IV), Kyoto, 1968.

## 5. 東南アジア農業技術シンポジウム(京都, 1967年6月)

主としてセンターの派遣により現地調査を行なった農学関係者が参加したシンポジウムで、東南アジアにおける農業技術改良の問題点とその対策が討議された。

出版：『東南アジア研究』5巻4号：東南アジア農業技術シンポジウム特集号(1968)。

## 6. 東南アジア経済発展(京都；大阪；東京, 1972年10月)

東南アジアおよび東アジア諸国における戦後の経済発展に関する国際シンポジウムで、東南アジアおよび日本を含む東アジアより30名の経済学者が参加、10編の報告と討論がなされた。

出版：市村真一編、『東南アジアの経済発展』東南アジア研究双書10, 創文社, 1975.

Shinichi Ichimura (ed.), *Economic Development of East and Southeast Asia* (CSEAS Monograph Series E-7), University of Hawaii Press, 1975.

## 7. 出生力推移に関するシンポジウム(京都, 1975年12月)

センターと米国ホノルルの East-West Population Institute の共催による国際シンポジウムで、東アジア・東南アジア・米国・日本より21名の専門家が参加、東南アジアと東アジアにおける出生力の推移とその要因が討論された。

出版：Lee-Jay Cho and Kazumasa Kobayashi (eds.), *Fertility Transition of the East Asian Populations*, University of Hawaii Press, forthcoming.

#### (4) 国際交流

センターにおける研究活動の推進とその寄与を深めるため、種々の形で外国の研究者、専門家との交流にも力が注がれている。

##### 外国人研究者の招聘

1976年度より客員研究員の制度をセンターに設け、主として東南アジア諸国の研究者を招聘し、滞在中センター研究スタッフの一員として共同研究あるいは意見の交換を行なっている。そのほかにも随時、外国人研究者の訪問、滞在を受け入れ便宜を計っている。以下は1963—1978年度の間在一定期間センターにおいて研究を行った外国人研究者のリストである。

##### A. 客員研究員

Gerard Diffloth	1976—77	モン・クメール比較言語学	University of Chicago (米国)
Likhit Dhiravegin	1976	タイ国および日本の近代化	Thammasat University (タイ)
Sorasith Vacharotayan	1976	熱帯土壌の生産力	Kasetsart University (タイ)
Edita A. Tan	1977	アジアの金融市場	University of the Philippines (フィリピン)
Charnvit Kasetsiri	1977—78	東南アジア史	Thammasat University (タイ)
Kyaw Soe	1977—78	ビルマ産の植物	Moulmein College (ビルマ)
Narong Thiramongkol	1978—79	地形発達史	Chulalongkorn University (タイ)
Hadiarto Mangunnegoro	1978	病理生理学・肺機能の研究	Persahabatan Hospital, Jakarta (インドネシア)

##### B. その他の外国人研究者

J. H. Badgley	1964—65	東南アジアにおける国際政治	Johns Hopkins School of Advanced International Studies (米国)
D. A. Wilson	1968	タイ国の政治	University of California, Los Angeles (米国)
J. E. Bardach	1968	インドネシアの漁業、メコン開発問題	University of Michigan (米国)



J. S. Stargardt	1970	東南アジア史	Victorian Research Institute (オーストラリア)
Thee Kian Wie	1972	南スマトラの社会経済調査	LEKNAS (インドネシア)
J. L. Tamba	1972—74	地域開発計画	Sriwidjaja University (インドネシア)
Thomas B. Wiens	1974	アジアの経済発展	University of Oregon (米国)
Mikhail Nosov	1975	日本のアジア政策	National Research Institute of the World Economy and International Relations (ソ連)
Bernard K. Gordon	1977—78	東アジア・太平洋地域の国際政治	University of New Hampshire (米国)

### 外国研究機関への派遣

1963—1978年度の間に、次のセンター所員が外国の大学、研究機関に教授および研究のために派遣された。

坪内 良博	1968—69	発展途上国の人口問題	Princeton University (米国)
山田 勇	1968—70	熱帯森林生態学	Lembaga Biologi Nasional (インドネシア)
吉原久仁夫	1969	日本の経済発展	University of Michigan (米国)
同	1970—71	東アジアの経済発展	University of the Philippines (フィリピン)
高谷 好一	1971	デルタの第四期学的研究	University of Texas (米国)
安場 保吉	1971—72	東南アジア経済	Thammasat University, Chulalongkorn University (タイ)
海田 能宏	1971—72	水資源工学	University of California, Riverside (米国)
吉原久仁夫	1973—74	東アジアの経済発展	University of Singapore (シンガポール)
辻井 博	1973—74	タイの農業経済発展	Chulalongkorn University, Kasetsart University (タイ)
石井 米雄	1973—75	上座部仏教サンガの比較	SOAS, University of London (英国)
安場 保吉	1975	経済史	Australian National University (オーストラリア)
福井 捷朗	1975—76	水田の分類	Agricultural University Wageningen (オランダ)
江崎 光男	1975—76	フィリピン経済発展	University of the Philippines (フィリピン)
土屋 健治	1975—77	インドネシア民族主義運動	Leidse Universiteit, Leiden (オランダ)
吉原久仁夫	1976—77	日本と東南アジアの経済発展	Stanford University (米国)
山影 進	1978—79	ASEAN に関する研究	University of Malaya (マレーシア)

### 留学生の派遣と受入れ

このほかにセンターは東南アジア研究を志す研究者の養成と国際交流の目的で、センターの若手研究者、京都大学の大学院生、およびその他の学生、若手研究者を欧米と東南アジアに留学生として派遣あるいは留学の便宜を計った。また、東南アジア諸国の学生数名をセンターの研修員として受入れ、その指導に当たった。

## (5) 研究会

センターでは、定期的な研究例会のほか、内外の研究者を招いて、随時、特別研究会を行なっている。そのほかにも、テーマ別に組織された研究会が、いくつか行なわれている。以下は、過去3年間にセンターで行なわれたこれらの研究会の一覧である。

### 東南アジア研究例会

1975年度

- 5月22日 坪内 良博（センター）  
「東南アジア村落論」
- 6月12日 口羽益生（竜谷大学文学部）  
「バリ島の稲作と村落」
- 6月26日 前田 成文（センター）  
「ブギス・マカサル族の Siring について」
- 7月10日 水野 浩一（センター）  
「大陸部から見た島嶼部」
- 7月24日 矢野 暢（センター）  
「東南アジアにおける国家権力の類型—封建制・家産制・藩主制」
- 9月25日 青山 秀夫（京都大学名誉教授）  
「歴史における宗教と文化—ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理』を手がかりとして」
- 10月9日 原 忠彦（東京外大 AA 研）  
「イスラームと環境」
- 10月23日 石井 米雄（センター）  
「上座部仏教のエコロジー」
- 11月27日 口羽 益生（竜谷大学文学部）  
「民族文化と宗教」
- 12月1日 高谷 好一（センター）  
「山・平野・海—その環境的考察」
- 1月22日 安場 保吉（センター）  
「伝統社会の工業化：経済学のアプローチ」
- 2月12日 森村 勝（中央大学）  
「民族資本の形成と経営者層」
- 2月26日 吉原久仁夫（センター）  
「外国資本と技術の伝達」
- 3月11日 犬飼 一郎（京都産業大学）  
「労働力形成と教育訓練」

- 3月25日 水野 浩一（センター）  
「近郊農村の変貌」
- 1976年度
- 4月22日 Gerard Diffloth（センター， Visiting Fellow）  
“Mon-Khmer Languages in Malaysia and in the Rest of Southeast Asia”
- 6月3日 Likhit Dhiravegin（センター， Visiting Fellow）  
“Contemporary Thai Politics”
- 6月10日 田辺 繁治（国立民族学研究博物館）  
「ラーンナータイの農村」
- 6月24日 三谷 恭之（センター）  
「南中国におけるタイ語について」
- 7月1日 前田 成文（センター）  
「Amparita—南スラウェシにおける一コミュニティ・スタディー—」
- 7月8日 杉山 晃一（東北大学日本文化研究施設）  
「祖霊祭祀と死者供養—北部タイの一農村における事例研究」
- 9月30日 久馬 一剛（センター）  
「東南アジアのデルタの農業」
- 10月14日 Sorasith Vacharotayan（センター， Visiting Fellow）  
“The Role of Kasetsart University in the Thai National Development”
- 10月28日 大矢 雅彦（早稲田大学）  
「バングラデシュの地形分類と日本の援助計画」
- 11月11日 海田 能宏（センター）  
「メコン農業の将来」
- 11月25日 Gerard Diffloth（センター， Visiting Fellow）  
“Relation between the Animals and Human Being in Semai Society”
- 12月9日 市村 真一（センター）  
「緑の革命と農村開発」
- 12月23日 山田 勇（センター）  
「東南アジアの森林構造」
- 1月13日 辻井 博（センター）  
「アジアにおける気象の農業生産におよぼす影響」
- 1月27日 坪内 良博（センター）  
「都市環境における対人関係—ジャカルタの事例から—」
- 2月10日 石井 米雄（センター）  
「タイ国における国家と宗教」
- 2月24日 中嶋 千尋（京大農学部）  
「米産・米食国における経済発展に伴う食糧自給率の低下仮説について」
- 3月10日 高谷 好一（センター）

- 「イラワジ・デルタの稲作」  
 3月24日 福井 捷朗（センター）  
 「サラワクの稲作」
- 1977年度
- 6月20日 本岡 武（センター）  
 「FAO に勤務して」
- 7月11日 土屋 健治（センター）  
 「ヨーロッパにおけるインドネシア研究」
- 9月12日 Edita A. Tan（センター，Visiting Fellow）  
 “Some Economic Implications of Major Issues in Japanese Higher Education”
- 9月26日 Charnvit Kasetsiri（センター，Visiting Fellow）  
 “Peasant Rebellions in Ayudhya”
- 10月24日 福井 捷朗（センター）  
 「農業開発のための土地評価方法論をめぐって」
- 11月28日 速水佑次郎（東京都立大学経済学部）  
 “Evolution of Landtenure System in a Philippines Village”
- 2月6日 海田 能宏（センター）  
 「メコン委員会から帰って」
- 2月27日 Bernard K. Gordon（センター，Guest Professor）  
 “International Politics in East Asia : Implications for the Foreign Policies of Japan and the USA”
- 3月13日 Kyaw Soe（センター，Visiting Fellow）  
 “Some Aspects on the Natural Life Resources of Burma”
- 1978年度
- 7月10日 渡部 忠世（センター）  
 「アジア大陸における栽培稲の変遷と伝播」
- 8月14日 Hadiarto Mangunegoro（センター，Visiting Fellow）  
 “Some Aspects of Health Care and Service in Indonesia in Comparison with Japan”
- 9月25日 Suthy Prasartset  
 “Socio-Economic Origins and Ideas of Thai Industrial Entrepreneurs”

## 現地調査報告会

### 1975年度

- 5月15日 野上 裕生（理学部）  
 「海外調査における問題点」
- 6月5日 満久 崇麿（木材研究所），石原 茂久（木材研究所）  
 「東南アジアの木材事情」

2月19日 辻井 博（センター）、長谷川史郎（大阪府立大学）  
「パキスタン・インド・バングラディッシュから帰って」

1976年度

4月8日 前田 成文（センター）  
「インドネシアから帰って」  
5月13日 Likhit Dhiravegin（センター、Visiting Fellow）  
“The Peoples Republic of China, An Impressionistic View”

特別研究会

1975年度

6月14日 Gerald Meier (Stanford University)  
“Problems of Trade and Employment in Developing Countries”  
6月21日 奥平 竜二（外務省）  
「最近のビルマにおける学術研究事情」  
12月1日 George Mcturnan Kahin (Cornell University)  
“Studies for South East Asian Countries in U. S. A.”  
3月16日 Vernon W. Ruttan (Agricultural Development Council, Singapore)  
“Agricultural Development of South East Asian Countries”

1976年度

7月16日 Daw Kin Yi (Taunggyi University, Burma)  
“Birth and Death among the Kachin”

1977年度

10月3日 L. J. Pons (Agricultural University of the Netherlands, Wageningen)  
“Past, Present and Future of the Dutch Contributions to the Reclamation and Improvement of Lowland of the World”

1978年度

5月24日 Donald K. Emmerson (University of Wisconsin)  
“Comments on the North-South International Economic Order : Lifeboat Ethics, Resource Politics and Asia”  
6月26日 Bernard K. Gordon (University of New Hampshire)  
“Foreign Policy Options in a Time of Change”

その他の研究会

「東南アジア平野開拓史」研究会

1977年度

第1回 5月19日 高谷 好一（センター）、石井 米雄（センター）  
「イラワジデルタ（ビルマ）」  
第2回 6月16日 桜井由躬雄（センター）

「紅河デルタ（ベトナム）」

1978年度

- 第3回 7月3日 土屋 健治（センター）  
「クリフォード・ギアツの‘Agricultural Involution’をめぐって」

「アジアの自然誌」研究会

1977年度

- 第1回 7月13日 安成 哲三（センター）  
「シェルパ族の一年」  
第2回 9月28日 高谷 好一（センター）  
「ネパールの生態史」  
第3回 10月20日 山田 勇（センター）  
「アジアの生態系」  
第4回 1月17日 高谷 好一（センター）  
「マレー半島の稲作」

1978年度

- 第5回 6月30日 安成 哲三（センター）  
「南西モンスーン」  
第6回 7月14日 Thawatchai Santisuk（理学部）  
“Vegetation and Ground Cover in Thailand”

特定研究「文化摩擦」＜異民族支配と文化摩擦＞班研究会

1977年度

- 第1回 4月28日 石井 米雄（センター）  
「今後の研究の進め方について」  
第2回 6月2日 石井 米雄（センター）  
「Helen Trager, *Burma Through Alien Eyes* について」  
第3回 7月7日 坪内 良博（センター）  
「Michael Symes, *An Account of an Embassy to the Kingdom of Ava* にあらわれた19世紀末の英国人のビルマ観」  
第4回 9月29日 坪内 良博（センター）  
「Hiram Cox, *Journal of a Residence in the Burman Empire* にあらわれた20世紀初頭の英国人のビルマ人観」  
第5回 10月20日 坪内 良博（センター）  
「“Michael Symes, *Journal of his Second Embassy to the Court of Ava in 1802*” にあらわれた19世紀初頭のイギリス人のビルマ人観」  
第6回 12月15日 石井 米雄（センター）  
「異民族支配と文化摩擦の視点について」

1978年度

- 第1回 6月29日 大野 徹 (大阪外国語大学)  
「ビルマ年代記にあらわれた英国人観」

特定研究「文化摩擦」＜日本の南方関与と文化摩擦＞班研究会

1977年度

- 第1回 5月14日 矢野 暢 (センター)  
「南方関与研究の方法論」
- 第2回 6月11日 土屋 健治 (センター)  
吉井牛太郎 (旧シンガポール在住者), 中村 孝志 (天理大学)  
「＜南方関与＞の吟味」
- 第3回 7月9日 吉川 洋子 (京都産業大学)  
「近代日本人のフィリピン進出の一局面」
- 第4回 9月17日 石居 靖彦 (アジア・ユースセンター)  
「蘭領インド (ジャワ) への日本人進出—ある日本人の生涯」
- 第5回 10月15日 吉川 洋子 (京都産業大学)  
「フィリピンへの日本人進出史の一局面」
- 第6回 11月12日 原 誠 (同志社大学)  
「日本人キリスト者三浦誠の『南方関与』」
- 第7回 12月10日 吉川 利治 (大阪外国語大学)  
「タイ国のおやとい外国人について」
- 第8回 1月25日 中村 孝志 (天理大学)  
「台湾総督府南方関係資料について」

1978年度

- 第1回 4月22日 矢野 暢 (センター)  
「昭和53年度の研究構想」
- 第2回 5月27日 矢野 暢 (センター)  
「大正期『南進論』の特質」
- 第3回 6月10日 高橋 三郎 (教養部)  
「近代日本の『庶民』像—その研究動向—」
- 第4回 7月8日 吉川 洋子 (京都産業大学)  
「フィリピン現地調査の成果」

特定研究「文化摩擦」＜アジア地域の経済発展と文化摩擦＞班研究会

1977年度

- 第1回 5月7日 市村 真一 (センター)  
「研究計画についての概念」
- 第2回 6月18日 水野 浩一 (センター)  
「文化摩擦への関心」

- 第3回 7月22日 西原 正 (防衛大学校)  
「軍部と文化摩擦の問題—インドネシアを中心に」
- 第4回 10月1日 坂下 昇 (大阪大学)  
「都市化と文化摩擦」
- 第5回 12月3日 鈴木 光男 (東京工業大学)  
「多人種共存社会における棲みわけについてのゲーム論的考察」
- 第6回 1月21日 猪木 武徳 (大阪大学)  
「LDC における市場の形成をはばむもの—G. Akerlof の理論の検証のこころみ」
- 第7回 3月16日 市村 真一 (センター)  
「近代経営と東南アジア社会」

1978年度

- 5月22日・23日 研究会打ち合わせ会
- 第1回 6月17日 市村 真一 (センター)  
「合弁企業に対する Survey の方法について」

## (6) 東南アジアセミナー

東南アジアセミナーは、東南アジアの自然・地理・歴史・民族・文化・社会・人口・政治・経済等について概説し、専門的研究に必要な基礎的知識を付与するため、集中的な講義及び演習を行なうことを目的とし、1976年から、毎年1回、開催されているものである。以下に、1977年度及び1978年度のセミナーの日程、講義題目、講師の一覧を掲げる。

### 1977年度 東南アジアセミナー日程及び講師

#### テーマ I. 東南アジアの稲作社会

第1日 8月5日 (金)		
「言語と民族」	東南アジア研究センター	三谷 恭之
「文明の形成過程」	〃	石井 米雄
「多民族社会の国民形成」	〃	土屋 健治
「基礎社会と外来文化」	〃	桜井由躬雄
第2日 8月6日 (土)		
「社会構造の諸類型」	東南アジア研究センター	坪内 良博
「伝統文化と社会組織」	〃	水野 浩一
「諸文化の比較：方法論 1」	〃	水野 浩一
「諸文化の比較：方法論 2」	〃	坪内 良博



第3日 8月8日(月)		
HRAF 実習「稲作民族の生活と文化」	東南アジア研究センター	石井米雄, 水野浩一, 坪内良博, 三谷恭之, 他
第4日 8月9日(火)		
HRAF 実習「稲作民族の生活と文化」	〃	同 上
<b>テーマII. 東南アジアの稲作と立地環境</b>		
第1日 8月17日(火)		
「気候」	東南アジア研究センター	久馬一剛
「地形と水文1」	〃	高谷好一
「地形と水文2」	〃	高谷好一
「土壌」	〃	久馬一剛
第2日 8月18日(木)		
「稲作の起源: 展開と立地環境」	農学部	渡部忠世
「稲作社会の歴史的発展と立地環境」	東南アジア研究センター	高谷好一
「稲作農村の開発と立地環境1」	〃	福井捷朗
「稲作農村の開発と立地環境2」	〃	福井捷朗
第3日 8月19日(金)		
野外討論「東南アジアから見た日本の稲作」	東南アジア研究センター	久馬一剛, 高谷好一, 福井捷朗
第4日 8月10日(土)		
野外討論「東南アジアから見た日本の稲作」	東南アジア研究センター	同 上
<b>テーマIII. ミュルダールとアジア</b>		
第1日 8月26日(金)		
「ミュルダール: アジア研究の背景1」	東南アジア研究センター	安場保吉
「ミュルダール: アジア研究の背景2」	〃	安場保吉
「アジアのドラマ分析視角1」	〃	安場保吉
「アジアのドラマ分析視角2」	〃	安場保吉
第2日 8月27日(土)		
「経済の実態1」	東南アジア研究センター	吉原久仁夫
「経済の実態2」	〃	吉原久仁夫
「人口問題1」	〃	小林和正
「人口問題2」	〃	小林和正
第3日 8月28日(日)		
「工業と労働力1」	東南アジア研究センター	安場保吉
「工業と労働力2」	〃	安場保吉
「教育問題1」	〃	市村真一
「教育問題2」	〃	市村真一

第4日 8月29日(月)

「計画化1」	東南アジア研究センター	矢野 暢
「計画化2」	〃	矢野 暢
「軟性国家論1」	〃	矢野 暢
「軟性国家論2」	〃	矢野 暢

**1978年度 東南アジアセミナー日程及び講師**

**テーマ 東南アジアの自然, 文化, 社会**

第1日 8月16日(水)

「自然構造1」	東南アジア研究センター	高谷好一
「自然構造2」	〃	高谷好一
「モンスーン1」	〃	安成哲三
「モンスーン2」	〃	安成哲三

第2日 8月17日(木)

「風化と土壌景観1」	農学部	古川久雄
「風化と土壌景観2」	〃	古川久雄
「畑作と稲作1」	東南アジア研究センター	福井捷朗
「畑作と稲作2」	〃	福井捷朗

第3日 8月18日(金)

「森と焼畑1」	東南アジア研究センター	山田 勇
「森と焼畑2」	〃	山田 勇
「稲作の歴史1」	〃	渡部忠世
「稲作の歴史2」	〃	渡部忠世

第4日 8月21日(月)

「言語の系統と民族1」	東南アジア研究センター	三谷恭之
「言語の系統と民族2」	〃	三谷恭之
「焼畑耕作民の生活—大陸部1」	〃	水野浩一
「焼畑耕作民の生活—大陸部2」	〃	水野浩一

第5日 8月22日(火)

「焼畑耕作民の生活—島嶼部1」	東南アジア研究センター	坪内良博
「焼畑耕作民の生活—島嶼部2」	〃	坪内良博
「農民の社会と文化—大陸部1」	〃	水野浩一
「農民の社会と文化—大陸部2」	〃	水野浩一

第6日 8月23日(水)

「農民の社会と文化—島嶼部1」	東南アジア研究センター	坪内良博
「農民の社会と文化—島嶼部2」	〃	坪内良博
「伝統文化と宗教の構造1」	大阪大学人間科学部	梶原景昭
「伝統文化と宗教の構造2」	〃	梶原景昭

第7日 8月24日(木)			
「民族主義の展開1」	東南アジア研究センター	土屋健治	
「民族主義の展開2」	〃	土屋健治	
「国民形成の基本構造1」	〃	土屋健治	
「国民形成の基本構造2」	〃	土屋健治	
第8日 8月25日(金)			
「政治文化の特質1」	東南アジア研究センター	矢野 暢	
「政治文化の特質2」	〃	矢野 暢	
「経済構造の変化1」	〃	安場保吉	
「経済構造の変化2」	〃	安場保吉	
第9日 8月28日(月)			
「農業発展と食糧問題1」	農学部	西村博行	
「農業発展と食糧問題2」	〃	西村博行	
「国際河川の開発ーメコンの自然と社会1」	東南アジア研究センター	海田能宏	
「国際河川の開発ーメコンの自然と社会2」	〃	海田能宏	
第10日 8月29日(火)			
「国際河川の開発ーメコンプロジェクト1」	東南アジア研究センター	海田能宏	
「国際河川の開発ーメコンプロジェクト2」	〃	海田能宏	
「貿易,工業化,外資 1」		吉原久仁夫	
「貿易,工業化,外資 2」	〃	吉原久仁夫	
第11日 8月30日(水)			
「人口と都市化1」	東南アジア研究センター	小林和正	
「人口と都市化2」	〃	小林和正	
「所得分配1」	〃	江崎光男	
「所得分配2」	〃	江崎光男	
第12日 8月31日(木)			
「世界のなかの東南アジア1」	東南アジア研究センター	市村真一	
「世界のなかの東南アジア2」	〃	市村真一	
討論1	東南アジア研究センター教官	西村博行	古川久雄
討論2	東南アジア研究センター教官		

## (7) 資料蒐集

東南アジアの研究を深化,発展させるために各種の資料蒐集が重要なことはいうまでもない。センターでは,図書資料部が中心となって,これらの資料を蒐集しているが,その内容は,図書,マイクロフィルム,統計,地図に大別される。各々の概要は,下記の通りである。

## 図 書

当センターでは、1965年に図書室が開設されて以来、東南アジアの自然・社会・文化に関する各種文献と雑誌との蒐集をすすめてきたが、その結果、1977年度末現在、17,428冊（内、洋書12,871冊、和漢書4,377冊）の書籍と172種の継続購入雑誌を蔵するにいたった。図書室の開館日は、月曜から土曜までであり「東南アジア研究センター図書利用規程」にもとづいて、閲覧、貸し出し等の業務を行なっている。

## マイクロフィルム

センターでは、1971年以降、インタードキュメンテーションセンターが製作した「インドネシア関係文献マイクロフィッシュ」を継続的に購入している。このマイクロフィッシュは、米国コーネル大学及びオランダ王立言語・民俗・文化研究所所蔵のインドネシア関係の諸資料（新聞、雑誌、書籍、官報等）からなり、現在までに、すでに製作されたもののうち、約半数（5万フィッシュ）を蒐集している。今後とも、この蒐集を継続していく予定である。

## 統 計

統計は東南アジア・東アジア諸国の政府刊行物、国連等国際機関出版物を中心に約2,300点を保有している。このうち、日本を除く東アジアと東南アジア関係が約半数である。統計の大部分は戦後に刊行されたものであるが、国際機関と日本関係のものは若干戦前の刊行物が含まれている。

## 地 図

所有する地図は東南アジア地域を中心に、インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、パキスタン、中国、朝鮮、オーストラリア、太平洋諸島及び日本周辺と、ほぼ南アジアから東アジア全域をおおっている。製作年代も、戦前のものから近年の航空測量によるものまで、多岐にわたっており、現在約1万2千枚余に及んでいる。この中には、旧陸地測量部による南アジア、東アジアの2万5千分の1、5万分の1地形図等、歴史的にみても貴重なコレクションもある。また、数は少ないが、東南アジア各国の土地利用図、地質図、植生図などサブジェクト別図巾も含まれている。この他、最近は、地球資源衛星LANDSATによる空中写真も、東南アジア全域について購入する計画が進められている。

## 第4章 研究スタッフ

センターの研究スタッフの略歴，主要な業績，現在の研究テーマは，以下の通りである。なお，(1)は最終学歴，(2)は学位，(3)は専攻，(4)は主要著書・論文，(5)は現在の研究テーマを示す。

### 市村真一

1. 京都大学経済学部，昭和24年卒業。
2. 経済学博士；マサチューセッツ工科大学 Ph. D.
3. 後進国発展論
4. (1) 『日本経済の構造』創文社，1957年。  
(2) “Non-Linear Dynamic Theory of Economic Fluctuations”, in K. K. Kurihara (ed.), *Post-Keynesian Economics*, Rutgers University Press, 1954.  
(3) *Regional Economic Survey of South Sumatra*, (with Thee Kian-Wee), LIPI, 1975.
5. (1) アジア経済の計量モデル  
(2) 農村発展論

### 小林和正

1. 東京帝国大学理学部，昭和18年卒業。
2. 理学博士
3. 人口学
4. (1) 「アジア諸国の家族計画」，東大出版会刊『家族—政策と法』第5巻，1976年，所収。  
(2) 『アジア人口学入門』（共著）アジア経済研究所，1978年。  
(3) 「人口学の生物学的側面」，千倉書房刊『人口学の方法』，1978年，所収。
5. 東南アジアの人口増加モデル

### 石井米雄

1. 東京外国語大学，昭和30年中退。

3. 東南アジア史, 南方上座部仏教比較論
4. (1) 『上座部仏教の政治社会学—国教の構造』創文社, 1975年。  
 (2) 『タイ国—ひとつの稲作社会』(編著)創文社, 1975年。  
 (3) “A Note on Buddhistic Millenarian Revolts in Northeastern Siam”, *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, 1975.
5. 南方上座部仏教サンガの比較研究

#### 安 場 保 吉

1. 東京大学教養部, 昭和28年卒業。
2. ジョーンズ・ホプキンス大学 Ph. D.
3. 経済発展論
4. (1) *Birth Rate of the White Population in the United States, 1800-1860 : An Economic Study*, Johns Hopkins University Press, Baltimore, 1962.  
 (2) 『現代経済の課題』5巻(共編著), 日本経済新聞社, 1973—75年。  
 (3) 「東南アジアにおける石油危機」, 『東南アジア研究』14巻4号, 1977年。
5. (1) 日本と東南アジアとの経済発展の比較経済史的研究  
 (2) 資源問題と日本の南進  
 (3) ASEAN の対外経済関係

#### 渡 部 忠 世

1. 京都大学農学部, 昭和24年卒業。
2. 農学博士
3. 作物学
4. (1) *Glutinous Rice in Northern Thailand*, Yokendo, Tokyo, 1967.  
 (2) 『食用作物学概論』農山漁村文化協会, 1977年  
 (3) 『稲の道』日本放送出版協会, 1977年。
5. アジア大陸における稲作技術の成立と変遷。

#### 水 野 浩 一

1. 京都大学文学部, 昭和31年卒業。
2. 京都大学文学博士
3. 社会人類学

4. (1) *Social System of Don Daeng Village : A Community Study in Northeast Thailand*, Discussion Paper No. 12-22, CSEAS, Kyoto University, 1971.
- (2) 「工業化と村落の変貌—中部タイのオム・ノーイ村—」, 『東南アジア研究』11巻4号, 12巻1号, 2号, 1974年。
- (3) “Comparative Analysis of Rural Development—Rice-Growing Villages in Thailand and Malaysia—”, 『東南アジア研究』15巻3号, 1977年。
5. (1) 比較社会組織
- (2) 農村部の変貌と発展
- (3) 変動期における文化摩擦

#### 高 谷 好 一

1. 京都大学理学部, 昭和33年卒業。
2. 京都大学理学博士
3. 自然地理学
4. (1) “Physiography of Rice Land in the Chao Phraya Basin of Thailand”, 『東南アジア研究』9巻3号, 1971年。
- (2) “Rice Cropping Patterns in Southern Asia Delta”, 『東南アジア研究』13巻2号, 1975年。
- (3) 「稲作圏の歴史的発展過程にかんする生態学的考察」, 『今西錦司博士古稀記念論文集：探險, 地理, 民族誌』1978年, 所収。
5. 稲作地の生態学的研究

#### 矢 野 暢

1. 京都大学法学部, 昭和34年卒業。
2. 京都大学法学博士
3. 政治発展論
4. (1) 『タイ・ビルマ現代政治史研究』創文社, 1968年。
- (2) 『「南進」の系譜』中公新書, 1975年。
- (3) 『東南アジア学への招待』日本放送出版協会, 1977年。
5. (1) タイ国の現代政治
- (2) 近代日本の南方関与

(3) 東南アジアの国際関係

坪 内 良 博

1. 京都大学文学部，昭和35年卒業。
2. 京都大学文学博士
3. 社会構造の比較
4. (1) 『離婚—比較社会学的研究』（共著）創文社，1970年。  
(2) 『マレー農村の研究』（共編著）創文社，1976年。  
(3) 『核家族再考—マレー人の家族圏』（共著）弘文堂，1977年。
5. 東南アジアの村落

吉 原 久 仁 夫

1. カリフォルニア州立大学経済学部，昭和37年卒業。
2. カリフォルニア大学 Ph. D.
3. 経済発展論
4. (1) *Foreign Investment and Domestic Response: A Study of Singapore's Industrialization*, Eastern Universities Press, Singapore, 1976.  
(2) *Japanese Investment in Southeast Asia*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1978.  
(3) "A Study of Philippine Manufacturing Corporations", *The Developing Economies*, Sept., 1971.
5. 社会変動と経済発展

海 田 能 宏

1. 京都大学農学部，昭和37年卒業。
2. 京都大学農学博士
3. 農業水文学
4. (1) "Hydrography of Rice Land in the Vietnamese Part of the Mekong Delta", 『東南アジア研究』12巻2号，1974年。  
(2) "Agro-Hydrologic Regions of the Chao Phraya Delta", in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, 1976.  
(3) "Pa Mong Optimization and Downstream Effects Study: Pa Mong Downstream



Effects on Hydrology and Agriculture in Democratic Kampuchea”, Report of Mekong Secretariat MKG/41, 1977.

5. (1) モンスーンアジアの稲作と水利 (2) メコン河下流域の水資源開発

福井 捷朗

1. 京都大学農学部, 昭和36年卒業。
2. 京都大学農学博士
3. 農業立地学
4. (1) “Environmental Determinants Affecting the Potential Dissemination of Chao Phraya River Basin of Thailand”, 日本経済研究センター, *Agriculture and Economic Development*, Vol. 1., 1972年, 所収。  
(2) 「水稻栽培の現状と展望」, 石井米雄編『タイ国——ひとつの稲作社会』創文社, 1975年, 所収。  
(3) “An Ecologist’s View on the Development of Rice Farming Communities”, *Proceedings of the International Conference on Rural Development Technology*, Asian Institute of Technology, Bangkok, 1977.
5. モンスーンアジアにおける水田自然環境の調査, 分類, 評価の方法論的研究。

前田 成文

1. 京都大学文学部, 昭和38年卒業。
2. シカゴ大学 Ph. D.
3. 文化人類学
4. (1) 『マレー農村の研究』(共編著) 創文社, 1976年。  
(2) 『核家族再考—マレー人の家族圏』(共著) 弘文堂, 1977年。  
(3) “Hajj and Kaan Buat”, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, 1975.
5. 社会組織とシンボル体系

江崎 光男

1. 東京大学教養学部, 昭和41年卒業。
2. ハーバード大学 Ph. D.
3. 経済発展の計量分析

4. (1) 『日本経済のモデル分析』創文社, 1977年。
- (2) “Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan, 1952-1980”, 『季刊理論経済学』26巻3号, 1975年。
- (3) “Growth Accounting of the Philippines: The Demand-for-Output Side”, 『東南アジア研究』15巻1号, 1977年。
5. ASEAN 諸国経済成長の数量的分析

### 三 谷 恭 之

1. 京都大学文学部, 昭和37年卒業。
2. コーネル大学 Ph. D.
3. 東南アジア言語学
4. (1) 「カメート語音素体系の記述と比較言語学的研究」, 『東南アジア研究』3巻3号, 1965年。
- (2) “Palaung Dialects: A Preliminary Comparison”, 『東南アジア研究』15巻2号, 1977年。
- (3) “Phonological Studies of Lawa: Description and Comparison”, Ph. D. Dissertation, Cornell University, 1978.
5. 東南アジア諸言語の比較言語学的研究

### 土 屋 健 治

1. 東京大学教養学部, 昭和41年卒業。
2. 東京大学国際学修士
3. インドネシア現代史
4. (1) 「スカルノとハッタの論争」, 『東南アジア研究』9巻1号, 1971年。
- (2) “The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years and Javanese Background”, *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, 1975.
- (3) 「「原住民委員会」をめぐる諸問題——支配と抵抗の様式に関連して——」, 『東南アジア研究』15巻2号, 1977年。
5. (1) タマン・シスワの研究
- (2) インドネシア政治の文化的了解

## 古川 久雄

1. 京都大学農学部，昭和38年卒業。
2. 農学博士
3. 土壌地理・生成
4. (1) 「ニューアイルランド島における土壌地理学的観察」、『東南アジア研究』12巻4号，1974年。  
(2) 「近畿地方低地部における土壌の分布則および分布単位に関する事例研究」、『ペドロジスト』20巻1号，1976年。  
(3) “Chemical, Mineralogical and Micromorphological Properties of Glaebules in Some Tropical Lowland Soils”，『東南アジア研究』14巻3号，1976年。
5. 土壌から見た東南アジアの農業地域区分

## 山田 勇

1. 京都大学農学部，昭和41年卒業。
2. 京都大学農学修士
3. 森林生態学
4. (1) “Forest Ecological Studies of the Montane Forest of Mt. Pangrango, West Java-I. Stratification and Floristic Composition of Montane Rain Forest near Cibodas”，『東南アジア研究』13巻3号，1975年。  
(2) “Forest Ecological Studies of the Montane Forest of Mt. Pangrango, West Java-II. Stratification and Floristic Composition of the Forest Vegetation of the Higher Part of Mt. Pangrango”，『東南アジア研究』13巻4号，1976年。  
(3) “Forest Ecological Studies of the Montane Forest of Mt. Pangrango, West Java-III. Litter Fall of the Tropical Montane Forest near Cibodas”，『東南アジア研究』14巻3号，1976年。
5. 熱帯アジアの森林ならびに焼畑の生態学的研究

## 山影 進

1. 東京大学教養学部，昭和47年卒業。
2. 東京大学国際学修士
3. 国際関係論

4. (1) 「相互関係の強さと歪みの計量化の一方法」(共著),『行動計量学』2巻1号, 1974年。
- (2) “Interdependence of the ASEAN Region : Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970”,『東南アジア研究』15巻2号, 1977年。
5. ASEAN をめぐる国際政治関係。

桜井 由躬雄

1. 東京大学文学部, 昭和42年卒業。
2. 東京大学文学修士
3. ベトナム社会経済史
4. (1) 「永盛均田例の研究」,『史学雑誌』84巻7号, 1976年。
- (2) 「ヴェトナム中世社数の研究」,『東南アジア:歴史と文化』5号, 1975年。
- (3) 「嘉隆均田例の分析」,『東南アジア研究』14巻4号, 1977年。
5. ベトナム村落共同体の史的発展(村落共有田の発展を中心として)

安成 哲三

1. 京都大学理学部, 昭和46年卒業。
2. 京都大学理学修士
3. 気象学
4. (1) “Stationary Waves in the Southern Hemisphere Mid-latitude Zone Revealed from Average Brightness Charts”, *Journal of the Meteorological Society of Japan*, Vol. 55, No. 3, 1977.
- (2) “Spectral Analysis of Monsoonal Precipitation in the Nepal Himalaya”, *Seppyo* Vol. 38, Special Issue, 1976.
- (3) “Characteristics of Monsoonal Precipitation around Peaks and Ridges in Shorong and Khumbu Himal”, *Seppyo* Vol. 40, Special Issue, 1978.
5. 南西モンスーン循環系の気象学的及び気候学的研究

## 第5章 出版目録

以下は、1977年度末現在に、センターが刊行した (1) 東南アジア研究叢書 (和文・英文)、(2) シンポジウム報告書、(3) 『東南アジア研究』、(4) リプリント・シリーズ、(5) ディスカッション・ペーパーの一覧である。

### 1. 東南アジア研究叢書

#### A. 英文叢書

- E-1. Sato, Takashi. *Field Crops in Thailand*. Kyoto : CSEAS, 1966.
- E-2. Watabe, Tadayo. *Glutinous Rice in Northern Thailand*. Kyoto : CSEAS, 1967.
- E-3. Takimoto, Kiyoshi. *Geology and Mineral Resources in Thailand and Malaya*. Kyoto : CSEAS, 1968.
- E-4. Kawaguchi, Keizaburo and Kazutake Kyuma. *Lowland Rice Soils in Thailand*. Kyoto : CSEAS, 1969.
- E-5. Kawaguchi, Keizaburo and Kazutake Kyuma. *Lowland Rice Soils in Malaya*. Kyoto : CSEAS, 1969.
- E-6. Maeda, Kiyoshige. *Alor Janggus : A Chinese Community in Malaya*. Kyoto : CSEAS, 1967.
- E-7. Ichimura, Shinichi (ed.). *Economic Development of East and Southeast Asia*. Honolulu : University Press of Hawaii, 1975.
- E-8. Nichihara, Masashi (ed.). *The Japanese and Sukarno's Indonesia ; Tokyo-Jakarta Relation, 1951-66*. Honolulu : University Press of Hawaii, 1976.
- E-9. Ichimura, Shinichi (ed.). *Southeast Asia : Nature, Society and Developmet ; Contributions to Southeast Asian Studies*. Honolulu : University Press of Hawaii, 1977.
- E-10. Kawaguchi, Keizaburo and Kazutake Kyuma. *Paddy Soils in Tropical Asia : Their Material Nature and Fertility*. Honolulu : University Press of Hawaii, 1977.
- E-11. Yoshihara, Kunio. *Japanese Investment in Southeast Asia*. Honolulu : University Press of Hawaii, 1978.
- E-12. Ishii, Yoneo (ed.). *Thailand : A Rice-Growing Society*. Honolulu : University Press of Hawaii, 1978.

#### B. 和文叢書

- J-1. 棚瀬 襄爾 『他界観念の原始形態』京都：京都大学東南アジアセンター，1966年。
- J-2. 矢野 暢 『タイ・ビルマ現代政治史研究』京都：京都大学東南アジア研究センター，1968年。

- J-3. 本岡 武 『東南アジア農業開発論』京都：京都大学東南アジア研究センター，1968年。
- J-4. 坪内 良博，坪内 玲子 『離婚——比較社会学的研究』創文社，1970年。
- J-5. 飯島 茂 『カレン族の社会・文化変容』創文社，1970年。
- J-6. シュトルツ著，野上裕生訳 『ビルマ——地誌・歴史・経済』創文社，1974年。
- J-7. 市村真一編 『東南アジアの自然・社会・経済』創文社，1974年。
- J-8. 石井米雄編 『タイ国——ひとつの稲作社会』創文社，1975年。
- J-9. 石井 米雄 『上座部仏教の政治社会学——国教の構造』創文社，1975年。
- J-10. 市村真一編 『東南アジアの経済発展』創文社，1975年。
- J-11. 本岡 武 『インドネシアの米』創文社，1975年。
- J-12. 口羽 益生，坪内 良博，前田 成文 『マレー農村の研究』創文社，1976年。
- J-13. 西原 正 『東南アジアの政治的腐敗』創文社，1970年。
- J-14. 江崎 光男 『日本経済のモデル分析——国民経済計算からの接近——』創文社，1977年。

## 2. シンポジウム報告書

- 1. *Rice Culture in Malaya.* Kyoto : CSEAS, 1965.
- 2. *Japan's Future in Southeast Asia.* Kyoto : CSEAS, 1966.
- 3. *Water Resource Utilization in Southeast Asia.* Kyoto : CSEAS, 1966.
- 4. *Medical Problems in Southeast Asia.* Kyoto : CSEAS, 1968.

## 3. 『東南アジア研究』所収論稿（第1巻～第15巻，1963年～1978年）

### 1. 東南アジア全般

#### 人文社会科学

- 1. 足利惇氏 「宗教と近代化」3巻2号，1965年，2～6ページ。
- 2. 飯島 茂 「東南アジア社会の原像——その文化人類学的考察」15巻3号，1977年，334～336ページ。
- 3. 江崎光男 「援助の two-gap 分析について」12巻1号，1974年，91～104ページ。
- 4. 鎌倉 昇 「後進国貿易の停滞性」1巻1号，1963年，26～30ページ。
- 5. 喜多村浩 「アジア経済開発の見通し」3巻3号，1965年，102～107ページ。
- 6. 口羽益生 「東南アジアにおける村落の構造——特に双系制について」12巻4号，1975年，478～488ページ。
- 7. 相良惟一 「東南アジア諸国比較教育行政機構論」3巻1号，1965年，2～14ページ。
- 8. 斉藤一夫 「東南アジア米輸出国の農業発展——理論的説明の精緻化・補強の観点から」15巻4号，1978年，495～509ページ。
- 9. 鳥居泰彦 「東南アジアの経済発達と労働市場——観察事実と農工間労働移動理論の誤謬」14巻1号，1976年，3～28ページ。
- 10. 中田淳一 「東南アジアにおける法学教育の現状」2巻2号，1964年，95～98ページ。

11. 中村孝志 「オランダの東南アジア研究——言語地理民族学研究所の業績を中心に」 2巻1号, 1964年, 94~106ページ。
12. 藤吉慈海 「南方仏教の戒律の聖典」 2巻1号, 1964年, 119~125ページ。
13. 藤原利一郎 「中国史料から見た東南アジアの歴史」 1巻2号, 1963年, 46~54ページ。
14. 船越昭生 「東南アジア華僑調査旅行を終えて」 3巻5号, 1966年, 144~151ページ。
15. 本岡 武 「地域研究とは何か」 1巻1号, 1963年, 5~19ページ。
16. 安場保吉 「東南アジアにおける石油危機」 14巻4号, 1977年, 573~588ページ。
17. 山影 進 “Interdependence of the ASEAN region — The transaction analysis of trade flows, 1950, 1960, 1970.” 15巻2号, 1977年, 213~225ページ。
18. 吉田光邦 「イスラムの暦と年中行事覚書」 1巻1号, 1963年, 20~25ページ。

### 自然科学

1. 赤井重恭 「東南アジア諸国における作物の病害覚書」 4巻3号, 1966年, 187~193ページ。
2. ——— 「東南アジア諸国における作物の病害」 5巻4号, 1968年, 60~70ページ。
3. 安芸皎一 「東南アジアにおける水利開発の問題点について」 3巻1号, 1965年, 52~64ページ。
4. 上田弘一郎 「竹から見た東南アジア」 1巻1号, 1963年, 44~54ページ。
5. 上野益三 「東南アジアにおける陸水生物学的研究」 2巻2号, 1964年, 94~109ページ。
6. ——— “Freshwater zooplankton of Southeast Asia.” 3巻5号, 1966年, 94~109ページ。
7. 小野尊睦, 天野義彦 「東南アジアにおけるベテルと口腔ガン」 5巻2号, 1967年, 152~161ページ。
8. 川口桂三郎 「東南アジアの水田土壌に関する研究調査 [予報]」 2巻1号, 1964年, 43~52ページ。
9. ——— 「東南アジアの水田土壌の概要と重要研究課題」 5巻4号, 1968年, 3~14ページ。
10. 川口桂三郎, 久馬一剛 “Paddy soils in tropical Asia — Part 1. Description of fertility characteristics.” 12巻1号, 1974年, 3~24ページ。
11. ——— “Paddy soils in tropical Asia — Part 2. Description of material characteristics.” 12巻2号, 1974年, 177~192ページ。
12. ——— “Paddy soils in tropical Asia — Part 3. Correlation and regression analysis of the soil data.” 13巻1号, 1975年, 45~47ページ。
13. ——— “Paddy soils in tropical Asia — Part 4. Soil material classification.” 13巻2号, 1975年, 215~227ページ。
14. ——— “Paddy soil in tropical Asia — Part 5. Soil fertility evaluation.” 13巻3号, 1975年, 385~401ページ。
15. ——— “Paddy soil in tropical Asia — Part 6. Characteristics of paddy soils in each country.” 14巻3号, 1976年, 334~364ページ。
16. 河津一儀 「東南アジアにおける魚毒植物とその有効成分」 5巻1号, 1967年, 166~170ページ。
17. 貴島恒夫 「東南アジアの木材」 5巻4号, 1968年, 103~108ページ。
18. 小林達治 「東南アジアの水田土壌における窒素固定微生物」 3巻3号, 1965年, 166~172ページ。

19. 久馬一剛 「東南アジアにおける赤色土壌の類別, 分布および生成について」 7巻2号, 1969年 163~176ページ。
20. ——— 「熱帯土壌中の鉄質形成物——特に結核と瘤塊について」 7巻4号, 1970年, 571~581ページ。
21. ——— “Climate of South and Southeast Asia according to Thornthwaite’s classification scheme.” 9巻1号, 1971年, 136~158ページ。
22. ——— “Numerical classification of the climate of South and Southeast Asia.” 9巻4号, 1972年, 502~521ページ。
23. ——— “Soil water regime of rice lands in South and Southeast Asia.” 11巻1号, 1973年, 3~13ページ。
24. 久馬一剛, 川口桂三郎 “Major soils of Southeast Asia and the classification of soils under rice cultivation (paddy soils).” 4巻2号, 1966年, 100~122ページ。
25. 佐藤 孝 「東南アジアのヤシ」 5巻2号, 1967年, 2~47ページ。
26. ——— 「東南アジアの畑作物の開発について」 5巻4号, 1968年, 38~48ページ。
27. 四手井綱英 「東南アジアの林業」 5巻4号, 1968年, 91~102ページ。
28. 志村 喬 「東南アジアの茶」 1巻2号, 1963年, 55~63ページ。
29. 瀬戸口烈司 「東南アジアの哺乳動物相の変遷についての研究情況と今後の課題 (I)~(III)」 8巻1号, 1970年, 91~112ページ。8巻2号, 1970年, 252~266ページ。8巻3号, 1970年, 378~400ページ。
30. 曾田長宗 「東南アジアにおける衛生事情」 4巻4号, 1967年, 7~15ページ。
31. ——— 「東南アジアの水稲施肥に関する一算察」 5巻4号, 1968年, 15~25ページ。
32. 高橋旨象, 貴島恒夫 “Decay resistance of sixty-five Southeast Asian timber specimens in accelerated laboratory tests.” 10巻4号, 1973年, 525~541ページ。
33. 高谷好一 “Rice cropping patterns in Southeast Asian deltas.” 13巻2号, 1975年, 256~281ページ。
34. ——— “Vertical zoning of monsoon Asia by agricultural landuse : a progress report.” 14巻1号, 1976年, 99~112ページ。
35. ——— “Rice growing societies of Asia : an ecological approach.” 15巻3号, 1977年, 442~451ページ。
36. 多紀保彦 “Geographic distribution of primary freshwater fishes in four principal areas of Southeast Asia.” 13巻2号, 1975年, 200~214ページ。
37. 寺松 孝 「開発途上にある国々に対するわが国の医療協力のあり方」 5巻2号, 1967年, 162~165ページ。
38. 西村英一, 久保寺章, 岸本兆方, 尾池和夫 「東南アジア地域における地震活動と火山活動」 1巻3号, 1963年24~54ページ。
39. 新田あや, 小島一郎 「東南アジアにおける生薬の比較研究 (第VI報) ——動物を基原とする中薬について(1)」 12巻2号, 1974年, 254~268ページ。
40. 新田あや, 吉田集而, 小島一郎 「東南アジアにおける生薬の比較研究 (第VII報) ——動物を基



- 原とする中薬について(2)」12巻4号, 1975年, 507~524ページ。
41. 濱田秀男 「稲栽培の起源」1巻3号, 1964年, 66~71ページ。
  42. 東昇 「いわゆるタイ出血熱の病原体チクングニアウイルスの増殖に関する電子顕微鏡学的研究」4巻1号, 1966年, 88~94ページ。
  43. 福岡誠行 「東南アジアの植物地理——スイカズラ科の分布を中心に——」6巻4号, 1969年, 272~285ページ。
  44. 富士岡義一 「かんがい排水による東南アジア農業開発」5巻4号, 1968年, 135~145ページ。
  45. 古川久雄, James Handawella, 久馬一剛, 川口桂三郎, “Chemical, mineralogical and morphological properties of glaeboles in some tropical lowland soils.” 14巻3号, 1976年, 365~388ページ。
  46. 松尾淳嘉郎 「東南アジアの水田土壌の肥沃度分析法に関する研究」6巻3号, 1968年, 2~112ページ。
  47. 水野寿彦 「東南アジアにおける陸水の研究」14巻4号, 1977年, 593~609ページ。
  48. 南勲 「東南アジアにおける広域水利計画の予備調査報告」2巻2号, 1964年, 30~51ページ。
  49. 美濃口玄, 天野義彦 「東南アジアにおけるむし歯の問題」4巻4号, 1967年, 53~59ページ。
  50. 美野口玄, 小野尊陸, 佐藤匠, 天野義彦 「熱帯地域における歯牙弗素症発症閾に関する研究——雨季における調査成績および乾季との比較」5巻2号, 1967年, 125~151ページ。
  51. 吉村寿人 「ヒトの熱帯馴化に関する生理学的研究」13巻4号, 1976年, 602~640ページ。
  52. 若松英一 「海外医療協力の実情」4巻4号, 1967年, 15~32ページ。
  53. 渡辺弘之 「熱帯地方における森林土壌動物の研究について——東南アジアを中心に——」3巻5号, 1966年, 138~143ページ。

## 2. 大陸部東南アジア

### 2-1 ビルマ

1. 大野徹 「ビルマ共産党の現状」6巻3号, 1968年, 156~168ページ。
2. ——— 「ビルマにおける賤民社会の発生とその現状」7巻2号, 1969年, 209~216ページ。
3. ——— 「ビルマにおけるカレン民族の独立闘争史 [その1~3]」7巻3号, 1969年, 363~390ページ。7巻4号, 1970年, 546~570ページ。8巻1号, 1970年, 64~90ページ。
4. ——— 「ビルマ国軍史 [その1~3]」8巻2号, 1970年, 218~251ページ。8巻3号, 1970年, 347~377ページ。8巻4号, 1971年, 534~565ページ。
5. ——— 「パガン, ピンヤ, インワ時代のビルマ人仏教徒の功德」9巻2号, 1971年, 19~45ページ。
6. ——— 「パガン, ピンヤ, インワ時代のビルマ人仏教徒の呪詛」9巻2号, 1971年, 176~193ページ。
7. ——— 「パガン, ピンヤ, インワ時代のビルマの社会」9巻3号, 1971年, 310~327ページ。
8. ——— 「コンバウン時代のビルマの神判」10巻1号, 1972年, 32~59ページ。

9. ——— 「ビルマの壁画（Ⅰ）（Ⅱ）——パガン時代を中心として」11巻3号, 1973年, 360～381ページ。12巻1号, 1974年, 78～90ページ。
10. ——— 「ビルマの壁画（Ⅲ）——ニャウンヤン時代を中心として」14巻2号, 1976年, 270～285ページ。
11. ——— 「ビルマの壁画（Ⅳ）——コンバウン時代を中心として」14巻3号, 1976年, 442～460ページ。
12. 海恵宏樹 「ビルマ仏教の輪廻説」1巻3号, 1964年, 11～23ページ。
13. 桂満希郎 「ティディム・テン語研究」1巻4号, 1964年, 29～40ページ。
14. 工藤成樹 「ビルマ人の生活における仏教」1巻3号, 1964年, 2～10ページ。
15. 佐藤幸治 「ビルマ・タイ等における Satipatthana による人格形成について」3巻1号, 1965年, 15～21ページ。
16. Than Tun, “Saraswati of Burma” 14巻3号, 1976年, 433～441ページ。
17. ——— “North-south alignment of Burma’s old walls.” 14巻4号, 1977年, 589～592ページ。
18. 田中耕司, 渡部忠世 「ビルマ中央平原の作物分布」14巻2号, 1976年, 286～301ページ。
19. 西田龍雄 「ビルマ語とロロ語——その声調体系の比較研究」1巻4号, 1964年, 13～28ページ。
20. ——— 「ロロ・ビルマ語比較研究における問題」6巻4号, 1969年, 198～219ページ。
21. 原田正春 「ビルマ語述部要提」2巻2号, 1964年, 81～94ページ。
22. Badgley, John H. “The Theravada polity of Burma.” 2巻4号, 1963年, 13～21ページ。
23. 藤吉慈海 「ビルマの仏教について」1巻2号, 1963年, 13～21ページ。
24. Pollak, Oliver B. “Candour and confidentiality : Textual criticism of two Greek letters on Anglo-Burmese relations, 1838.” 14巻2号, 1976年, 立302～306ページ。
25. Matisoff, James A. “Tangkhul Naga and comparative Tibeto-Burman.” 10巻2号, 1972年, 271～283ページ。
26. 三谷恭之 “Palaung dialects : A preliminary comparison.” 15巻2号, 1977年, 193～212ページ。
27. 藪 司郎 「ビルマ語における数の範疇について——複数助詞の用法を中心に」7巻4号, 1970年, 504～526ページ。
28. Withey, Joseph A. “The Burmese *Pwe* : British newspaper accounts (1899-1921)” 15巻4号, 1978年, 573～580ページ。

## 2-2 タ イ

### 人文社会科学

1. 赤木 攻 「タイ国の法体系に関する一考察（Ⅰ）（Ⅱ）——伝統的法体系の存続」13巻3号, 1975年, 441～454ページ。13巻4号, 1976年, 588～601ページ。
2. 綾部恒雄 「タイ国の教育と dek wat ——バンケムの調査を中心として」9巻2号, 1972年, 227～235ページ。
3. ——— 「タイ農村における集団の形態——ワット委員会・学校委員会の機能分析を中心として」10巻4号, 1973年, 583～594ページ。

4. 飯島明子 「タイにおける領事裁判権をめぐる——保護民問題の所在」14巻1号, 1976年, 71～98ページ。
5. 飯島 茂 「タイ国北部における山地カレン族の文化変容——予報1——」2巻4号, 1965年, 2～19ページ。
6. ——— 「タイ国北西部におけるカレン族の平地民化」3巻5号, 1966年, 40～71ページ。
7. ——— 「カレン族の農民過程における家族儀礼」5巻2号, 1967年, 80～92ページ。
8. ——— 「カレン族社会の農民型再編成——山村と平地村の比較研究を中心に」6巻4号, 1969年, 2～23ページ。
9. 石井米雄 「タイ語文献について(1)～(4)」1巻4号, 1964年, 2～12ページ。2巻1号, 1964年, 13～24ページ。2巻2号, 1965年, 67～80ページ。2巻4号, 1965年, 38～51ページ。
10. ——— 「タイの奴隷制に関する覚書」5巻3号, 1967年, 167～180ページ。
11. ——— 「タイの徭役制の一考察——「三印法典」を中心として」6巻1号, 1968年, 36～54ページ。
12. ——— 「アユタヤ王朝の統治範囲を示す「三印法典」中の3テキスト」6巻2号, 1968年, 135～164ページ。
13. ——— 「三印法典について」6巻4号, 1968年, 135～164ページ。
14. ——— 「国家と宗教に関する一考察(I)——ラーマ1世における仏教の「擁護」」7巻4号, 1970年, 442～461ページ。
15. ——— 「国家と宗教に関する一考察(II)——スコタイにおける大寺派上座部仏教の受容をめぐる諸問題」9巻2号, 1971年, 2～18ページ。
16. ——— 「国家と宗教に関する一考察(III)——タイ仏教における ecclesia の成立とその意義」10巻2号, 1972年, 197～213ページ。
17. ——— 「タイにおける千年王国運動について」10巻3号, 1972年, 352～369ページ。
18. ——— 「タイ国における『教法試験』について」10巻4号, 1973年, 542～560ページ。
19. ——— 「タイ国における国民統合と仏教サンガの役割」11巻3号, 1973年, 338～359ページ。
20. ——— 「タイ国における『イスラームの擁護』についての覚え書」15巻3号, 1977年, 347～361ページ。
21. 石井米雄, 坪内良博 「タイ国における出家行動の地域的変異についての一考察」8巻1号, 1970年, 2～15ページ。
22. 市川健二郎 「張蘭臣と激動期のタイの華僑」8巻3号, 1970年, 292～304ページ。
23. 市村真一, 水野浩一, 坪内良博, 浅野俊夫, Prasert Yamklinfung, M. R. W. Akin Rabibhadana Yut Sakdejayont, Mubyarto, Masuri Singarimbun. "The socio-economic behavior of peasants in central Java and central Thailand —— A summary report." 12巻3号, 1974年, 322～343ページ。
24. 岩田慶治 「北部タイにおける村落社会の解体と再編成過程——部族から国家への道程——」2巻2号, 1964年, 2～29ページ。
25. ——— 「北部タイ国における稲作技術——タイ・ヤーイ族とタイ・ルー族の場合」6巻4号, 1968年, 257～271ページ。

26. Kasem Udyanin, Kasem Sumanagul. "Development of Thai administration." 3巻3号, 1965年, 108~116ページ。
27. 桂満希郎 「アカ語アルー村方言の音素」4巻1号, 1966年, 122~132ページ。
28. ——— 「ラフ・ナ語の音素体系——ラフ・ナ語の記述」6巻3号, 1968年, 113~137ページ。
29. ——— 「アカ語の音韻構造および形態構造の概略」6巻4号, 1969年, 220~240ページ。
30. ——— "Notes on some phonological aspects of northern Thai." 7巻2号, 1969年, 148~162ページ。
31. ——— "An outline of the structure of the Akha language (Part 1) — Introduction and phonemics." 8巻1号, 1970年, 16~35ページ。
32. Keyes, Charles F. "A note on the ancient towns and cities of northeastern Thailand." 11巻4号, 1974年, 497~506ページ。
33. 北原 淳 「タイの地租改正について」14巻1号, 1976年, 49~70ページ。
34. 清永敬次 「タイ国税制と税務行政」5巻3号, 1967年, 50~65ページ。
35. 佐藤幸治 「ビルマ・タイにおける Satipatthana による人格形成について」3巻1号, 1965年, 15~21ページ。
36. 田辺繁治 「タイ旧制度下の国家領域に関する一考察」10巻2号, 1972年, 246~270ページ。
37. ——— 「Chao Phraya のデルタの運河開発に関する一考察 (I) —— Ayutthaya 朝より Ratanakosin 朝四世王治世まで」11巻1号, 1973年, 14~48ページ。
38. ——— 「Chao Phraya のデルタの運河開発に関する一考察 (II) —— 19世紀末葉における変容過程」11巻2号, 1973年, 191~222ページ。
39. Thiva Supajanya, Srisaka Vallibhotama. "The need for an inventory of ancient sites to anthropological research in northeastern Thailand." 10巻2号, 1972年, 284~297ページ。
40. 辻井 博 「伝統的米輸出の農業生産性を規定する諸要因と緑の革命——タイ国における米生産の生産関数による分析を中心として」10巻4号, 1973年, 503~524ページ。
41. ——— 「タイ国ライス・プレミアム政策の実証的経済分析」13巻3号, 1975年, 358~384ページ。
42. 中嶋千尋 「タイ米輸出制度の経済理論的分析」13巻3号, 1975年, 339~357ページ。
43. 西田龍雄 「ビス語の研究——タイ国北部におけるビス族の言語の予備的研究」4巻1号, 1966年, 65~87ページ。
44. ——— 「ビス語の系統 (I) (II)」4巻3号, 1966年, 42~68ページ。4巻5号, 1967年, 52~68ページ。
45. ——— 「リス語の研究——タイ国ターク県におけるリス族の言語の予備報告」5巻2号, 1967年, 48~79ページ。
46. ——— 「リス語比較研究 (I) (II)」6巻1号, 1968年, 2~35ページ。6巻2号, 1968年, 19~47ページ。
47. ——— 「ロロ・ビルマ語比較研究における問題」6巻4号, 1969年, 198~219ページ。

48. ——— 「ラフ・シ語の研究——タイ国チェンライ県におけるラフ・シ族の言葉の予備報告」 7巻1号, 1969年, 2~39ページ。
49. 西村博行 「稲作経営における農業の技術・経済的知識の普及——メコンデルタとチャオプラヤ河, ピン河流域における比較調査」 14巻3号, 1976年, 389~407ページ。
50. ——— 「稲作経営における収益性要因の比較分析——メコン・デルタ, チャオプラヤ河流域とわが国(滋賀県)の農業経営調査結果より」 15巻3号, 1977年, 334~346ページ。
51. 藤吉慈海 「タイ国仏教の現状調査」 3巻3号, 1965年, 130~139ページ。
52. ——— 「東南アジアの仏教調査報告——タイ・ラオス・マレーシア」 4巻3号, 1965年, 178~186ページ。
53. Brailey, Nigel J. "Chiangmai and the inception of an administrative centralization policy in Siam (I) (II)" 11巻3号, 1973年, 299~320ページ。11巻4号, 1974年, 439~461ページ。
54. 水野浩一 「農民所有と家族の諸形態——タイ国東北部の稲作農村」 3巻2号, 1965年, 7~35ページ。
55. ——— 「宗教儀礼の機能的体系——タイ国東北部の一部落ドーン・デング」 3巻3号, 1965年, 2~21ページ。
56. ——— 「東北タイの農村の経済生活」 5巻3号, 1967年, 2~28ページ。
57. ——— 「階層構造の分析——タイ国東北部の稲作農村」 6巻2号, 1968年, 2~18ページ。
58. ——— 「東北タイの村落組織」 6巻4号, 1969年, 24~40ページ。
59. ——— 「工業化と村落の変貌——中部タイのオム・ノーイ村——(I), (II), (III)」 11巻4号, 1974年, 470~484ページ。12巻1号, 1974年, 25~48ページ。12巻2号, 1974年, 211~231ページ。
60. ——— "Comparative analysis of rural development——Rice-growing villages in Thailand and Malaysia." 15巻3号, 1977年, 398~420ページ。
61. 三谷恭之 「タイ諸語比較研究の展望」 1巻2号, 1963年, 39~45ページ。
62. ——— 「カメート語音素体系の記述と比較言語学的考察」 3巻3号, 1965年, 22~51ページ。
63. ——— 「ラフ語ボールワン方言の基本体系」 4巻2号, 1966年, 40~62ページ。
64. ——— 「ラフ語語彙資料」 10巻1号, 1972年, 131~168ページ。
65. ——— 「ラフ語音韻論の研究」 10巻2号, 1972年, 174~196ページ。
66. ——— 「タイ・カダイ諸語の言語年代学的考察」 15巻3号, 1977年, 421~429ページ。
67. 本岡 武 「タイ国における農地問題と農地制度改革」 2巻4号, 1965年, 20~37ページ。
68. ——— 「タイの経済発展と農業」 3巻5号, 1966年, 2~39ページ。
69. ——— 「タイ農業における生産基盤の整備——とくに末端水利組織と土地改良協同組合との関係について」 4巻3号, 1966年, 91~130ページ。
70. 森口兼二 「タイ国近代化の社会・文化的背景と教育的課題」 4巻3号, 1966年, 2~41ページ。
71. 矢野 暢 「タイ国政治の連続性と不連続性」 1巻1号, 1963年, 31~43ページ。
72. ——— "A socio-anthropological survey in Songkhla Province: A preliminary report." 3

- 巻1号, 1965年, 140~143ページ。
73. ——— 「南タイの土地所有——タイ・イスラム村落におけるケース・スタディ」 4巻5号, 1967年, 2~31ページ。
  74. ——— 「南タイにおける通婚圏の形成」 7巻4号, 1970年, 462~491ページ。
  75. ——— 「南タイ農村の村外居住体験について——タイ・イスラム村落におけるケース・スタディ」 8巻2号, 1970年, 138~170ページ。
  76. ——— 「南タイ農村の経済生活——タイ・イスラム村落での実態調査」 8巻4号, 1971年, 442~488ページ。
  77. ——— 「南タイ農村の発展史的把握(1)——派生村形式の社会過程」 12巻1号, 1974年, 49~65ページ。
  78. ——— 「タイにおける「革命団布告」の政治機能——73年「10月政変」の背景についての一考察」 12巻4号, 1975年, 419~435ページ。
  79. 吉原久仁夫 「ASEAN 諸国における日本の合弁企業」 11巻1号, 1973年, 77~85ページ。

#### 自然科学

1. 赤井重恭 大口富三, 「タイ国で観察したイネの葉枯現象とその病原菌」 5巻1号, 1967年, 171~174ページ。
2. 赤井重恭, 大口富三 「イネの葉枯れ, 穂枯れ現象とそれらを原因する病原菌——II. タイ・マレーシアおよび台湾産罹病穂からの分離菌」 14巻1号, 1976年, 147~156ページ。
3. 秋浜友也, 渡部忠世 “Geographical distribution and ecotypic differentiation of wild rice in Thailand.” 8巻3号, 1970年, 337~346ページ。
4. 浅山亮二, 上野一也 「眼科学を通じて見たタイ国内事情」 1巻4号, 1964年, 82~88ページ。
5. Alekseev, M. N., 高谷好一 “An outline of the upper cenozoic deposits in the Chao Phraya Basin, central Thailand.” 5巻2号, 1967年, 106~124ページ。
6. 石崎澁雄 「フィリピン・タイ・インドネシアにおける強風について」 10巻1号, 1972年, 121~130ページ。
7. 岩槻邦男 「タイ国のシダ植物」 6巻4号, 1968年, 257~271ページ。
8. ——— 「タイ国のしだ植物相と植物地理」 13巻2号, 1970年, 282~294ページ。
9. 上野一也 「タイ国における眼科疾患」 4巻4号, 1967年, 77~83ページ。
10. 大井次三郎 “Contributions to the flora of Southeast Asia —— V. Gramineae and cyperaceae of Thailand.” 9巻2号, 1971年, 194~219ページ。
11. 大山良徳 「タイおよびインドネシアにおける青少年の体力に関する調査報告」 11巻1号, 1973
12. 大山良徳, 村井淳志, 松浦義行 「児童の体力差に関する分析的研究——日本・タイ・インドネシア児童相互間の比較」 14巻1号, 1967年, 29~48ページ。  
年, 148~163ページ。
13. 岡田誠太郎 「タイ国の癩, 特に小児癩に関する現地調査」 4巻4号, 1967年, 33~52ページ。
14. 岡田誠太郎, 西占 貢 「タイにおける児童レプロミン反応に関する研究」 4巻1号, 1966年, 95~110ページ。

15. 岡田誠太郎, 西占 貢, Khien Krai Vichien, Chaisiri Kettanurak, Phairoj Prasertsaravut, Teera Ramasoota, Surasak Sampattavanija. 「タイ国のらい接触児童における光田抗原および Dharmendra 抗原による皮内反応の研究について」 8 巻 3 号, 1970年, 401~417ページ。
16. 荻野和彦 「タイ国の気候区分にかんする一考察——とくに湿潤度の判定について」 5 巻 3 号, 1967年, 66~97ページ。
17. ——— 「森林の一次生産力調査における必要最小面積のさだめかたにかんする一試案——タイ国熱帯林のばあい」 6 巻 4 号, 1969年, 286~291ページ。
18. 荻野和彦, Duongkeo Ratanawongs, 堤 利夫, 四手井綱英 「タイ国森林の第一次生産力」 5 巻 1 号, 1967年, 121~154ページ。
19. 荻野和彦, Sanga Sabhasri, 四手井綱英 “The estimation of the standing crop of the forest in northeastern Thailand.” 1 巻 4 号, 1964年, 89~97ページ。
20. 海田能宏 “An analysis of the effect of environmental factors on paddy rice yields —— A case study from the northern region of the Greater Chao Phraya Project.” 9 巻 2 号, 1972年, 254~282ページ。
21. ——— “A subdivision of the Chao Phraya Delta in Thailand based on hydrographical conditions —— Water conditions in deltaic lowland rice fields (I)” 11 巻 3 号, 1973年, 403~413ページ。
22. ——— “Pioneer settlements and water control development in the west bank of the lower Chao Phraya Delta —— Water conditions in the deltaic lowland rice fields (II)” 11 巻 4 号, 1974年, 512~524ページ。
23. 海田能宏, 松本英二, Sayant Suthitavil, 高谷好一, Thavatchai Satrusajang. “Environmental conditions of three representative villages in Thailand.” 12 巻 3 号, 1974年, 291~299ページ。
24. 加藤 清, 笠原 嘉 「日タイ比較精神医学概観」 5 巻 3 号, 1967年, 98~114ページ。
25. 刈米達夫 「タイ国生薬視察報告」 2 巻 1 号, 1964年, 72~77ページ。
26. 北川尚史 “Studies on the hepaticae of Thailand —— III. The genus *Leucolojeunea*.” 6 巻 3 号, 1968年, 138~143ページ。
27. 木村康一 「東南アジアの生薬に関する調査」 2 巻 1 号, 1964年, 53~71ページ。
28. 木島正夫 「タイ生薬の考察 (I)~(V)」 6 巻 2 号, 1968年, 165~174ページ。6 巻 3 号, 1968年, 169~179ページ。7 巻 1 号, 1969年, 76~96ページ。7 巻 3 号, 1969年, 391~411ページ。7 巻 4 号, 1970年, 582~599ページ。
29. ——— 「タイにおける中薬 (I)(II)」 11 巻 3 号, 1973年, 414~432ページ。11 巻 4 号, 1974年, 545~557ページ。
30. 木島正夫, 永井吉澄 「スマトラならびにジャム安息香について」 7 巻 1 号, 1969年, 40~48ページ。
31. 木島正夫, 田端 守, Daroon Pecharaply. 「タイ国の民間医と民間薬」 11 巻 2 号, 1973年, 238~255ページ。

32. 木島正夫, 本多義昭, 玉田誠宏 「タイ国材類生薬について (I) ——構造の特性」 15巻1号, 1977年, 110~128ページ。
33. 木島正夫, 田端 守, 平岡 昇, Daroon Pecharaply. 「タイとインドに共通する 薬用植物の効用に関する文献的比較調査」 15巻2号, 1977年, 255~262ページ。
34. 佐川弥之助 「タイ国肺結核患者の肺機能障害について」 5巻3号, 1967年, 115~121ページ。
35. 佐藤 孝 「タイ国における畑作物」 1巻4号, 1964年, 41~53ページ。
36. ——— 「タイ国畑作農業の直面している諸問題について」 6巻2号, 1968年, 175~180ページ。
37. 沢田敏男 「タイ国における広域水利」 5巻4号, 1968年, 128~134ページ。
38. 清水建美 “Contributions to the flora of Southeast Asia —— II. *Impatiens* of Thailand and Malaya.” 8巻2号, 1970年, 187~217ページ。
39. 白木博次 「タイ国における2,3の神経疾患について」 4巻4号, 1967年, 60~76ページ。
40. Swai Sundharovat, 野上裕生 “Key to the selected genera of fusuline.” 10巻3号, 1972年, 433~450ページ。
41. 瀬野錦蔵, 小林 純, 湯原浩三 「タイ国河川の化学成分の溶出機構」 1巻3号, 1964年, 55~65ページ。
42. Somsri Sinanuwong, 高谷好一 “Distribution of saline in the Khorat Basin of Thailand—— Preliminary findings.” 12巻3号, 1969年, 365~382ページ。
43. 高橋英一 「タイ・マラヤ・カンボジアにおける稲作施肥をみて」 5巻1号, 1967年, 155~165ページ。
44. 高谷好一 “Physiography of rice land in the Chao Phraya Basin of Thailand.” 9巻3号, 1971年, 375~397ページ。
45. ——— “Topographical analysis of the southern basin of the Central Plain, Thailand.” 7巻3号, 1969年, 293~300ページ。
46. ——— “Two brackish clay beds along the Chao Phraya River of Thailand.” 9巻1号, 1971年, 46~57ページ。
47. ——— “Quaternary outcrops of the southern part of the Central Plain of Thailand.” 10巻2号, 1972年, 298~320ページ。
48. ——— “Physiography of rice land in Peninsular Thailand.” 10巻3号, 1972年, 422~432ページ。
49. ——— “The plant height of rice in delta —— A case study in the Chao Phraya Delta of Thailand.” 11巻2号, 1973年, 267~276ページ。
50. 高谷好一, 松本英二 “‘Fay’ and ‘Bo’ type rice culture on the marginal plain of Thailand.” 11巻4号, 1974年, 507~511ページ。
51. 高谷好一, 友杉 孝 「東北タイの“丘陵上の水田” ——特にその“産米林”の存在について」 10巻1号, 1972年, 77~85ページ。
52. 田川基二, 岩槻邦男 “On a small collection of Thailand ferns.” 3巻3号, 1965年, 70~89ページ。



53. ——— “Enumeration of Thai pteridophytes collected during 1965-66.” 5巻1号, 1967年, 23~120ページ。
54. 瀧本 清 「タイ・マレーシアの地質鉱床」 3巻1号, 1965年, 65~81ページ。
55. 堤 利夫 「タイ国の森林の植生とその土壌」 1巻4号, 1964年, 54~70ページ。
56. 堤 利夫, 菅 誠, Choob Khemanark. 「タイ国森林土壌における物質と量の循環——2, 3の物理性と炭素, チッ素量——」 4巻2号, 1966年, 137~176ページ。
57. ——— 「タイ国森林土壌における物質と量の循環——無機養分について」 4巻5号, 1967年, 95~126ページ。
58. Tem Smitinand, 清水建美, 小山博滋, 福岡誠行 “Contributions to the flora of South east Asia —— I. Taxonomy and phyto geography of some temperate species in Thailand.” 8巻2号, 1970年, 171~186ページ。
59. 寺松 孝 「タイ国における肺結核の現状——肺結核外科を中心として」 3巻1号, 1965年, 82~94ページ。
60. 中島暢太郎 「東南アジアの気候の特性について(2)——ラオス・タイ・マレーシア・シンガポールの大雨」 13巻2号, 1975年, 308~336ページ。
61. 西占 貢, 戸田円二郎, Chaisir Kettanurak, Anand Charoenbhakdi. “Clinical and pathological observations of reactional cases of leprosy in Thailand.” 3巻1号, 1965年, 105~110ページ。
62. 西尾雅七 「タイ国の公衆衛生」 2巻1号, 1964年, 86~93ページ。
63. 服部共生 “Mineral composition of clay fractions in some quaternary deposits in the Chao Phraya Basin, central Thailand.” 6巻4号, 1969年, 241~246ページ。
64. ——— “Some properties of soils and substrata in the Lampang Basin.” 7巻4号, 1970年, 527~545ページ。
65. ——— “The quaternary stratigraphy in the northern basin of the Central Plain, Thailand.” 9巻3号, 1971年, 398~419ページ。
66. ——— “Some properties of brackish sediments along the Chao phraya River of Thailand.” 9巻4号, 1972年, 522~532ページ。
67. ——— “Some properties of recent sediments in the Bangkok Plain of Thailand.” 10巻2号, 1972年, 321~334ページ。
68. ——— “Clay mineral compositions of the soils and substrata of some quaternary outcrops in the Saraburi and Lop Buri area of the Central Plain of Thailand.” 13巻3号, 1975年, 481~492ページ。
69. 服部共生, 古川久雄, 川口桂三郎, 「タイ国水田土壌の粘土鉱物にかんする2, 3の考察」 3巻3号, 1965年, 151~160ページ。
70. 服部共生, 渡部忠世, Ponpit Piyapongse, 川口桂三郎 「北タイにおける土壌の特性と水稻の収量」 6巻2号, 1968年, 93~108ページ。
71. 福井捷朗 「タイ国の水田における窒素の季節変動」 4巻5号, 1967年, 85~94ページ。
72. ——— “Rice culture in the Central Plain of Thailand (III) —— A review of rice ex-

- periments in Thailand.” 7 卷 3 号, 1969年, 301~333ページ。
73. ——— “Environmental determinants affecting the potential dissemination of high yielding varieties of rice — A case study of the Chao Phraya Basin.” 9 卷 3 号, 1971年, 348~374ページ。
  74. 福井捷朗, 高橋英一 “Rice culture in the Central Plain of Thailand — Subdivision of the Central Plain and the yield components survey of 1966.” 6 卷 4 号, 1969年, 292~320ページ。
  75. ——— “Rice culture in the Central Plain of Thailand (II)—Yield components survey in the Saraburi Ayutthaya area, 1967.” 7 卷 2 号, 1969年, 177~190ページ。
  76. ——— “Rice culture in the Central Plain of Thailand (IV)—Response to nitrogen of some native varieties under field conditions.” 8 卷 1 号, 1970年, 46~63ページ。
  77. ——— “Rice culture in the Central Plain of Thailand (V)—Possibility of higher yield viewed from the yield component surveys in farmers’ field.” 8 卷 4 号, 1971年, 518~533ページ。
  78. 福井捷朗, 服部共生 “Agricultures of six villages in central Thailand and central Java.” 12 卷 3 号, 1974年, 308~322ページ。
  79. 福岡誠行 “Contributions to the flora of Southeast Asia — III. *Hedyotis* (Rubiaceae) of Thailand.” 8 卷 3 号, 1970年, 305~336ページ。
  80. 富士岡義一 「タイ国のかんがい排水事業と今後の課題」 4 卷 2 号, 1966年, 123~136ページ。
  81. 富士岡義一, 海田能宏 「タイ国バンコク平原のかんがい排水について」 5 卷 3 号, 1967年, 138~166ページ。
  82. 堀 清記, 斉藤 昇, 吉村寿人 「熱帯住民の高温環境への適応に関する試論——タイ住民のケース・スタディ」 14 卷 1 号, 1976年, 123~131ページ。
  83. 本多義昭, 木島正夫 「タイ国生薬の抗菌性——とくに皮膚疾患に用いられる生薬の抗菌性」 14 卷 1 号, 1976年, 140~146ページ。
  84. 前川暢夫 「タイ国における結核の現状——結核化学療法の立場から」 3 卷 1 号, 1965年, 95~104ページ。
  85. 松浦義行, 大山良徳, 村井淳志 “A comparative study on physical fitness of children of three nations : Japanese, Thai and Indonesian.” 12 卷 3 号, 1974年, 383~400ページ。
  86. 松尾新一郎 「タイ国における地下水開発の構想とそれに伴う土質改良について」 3 卷 2 号, 1965年, 47~61ページ。
  87. 南 勲 「東北タイにおけるメコン河諸支流の流量特性」 2 卷 4 号, 1965年, 91~97ページ。
  88. ——— 「タイ国における広域年間水収支にかんする一考察 (1963年)」 3 卷 3 号, 1965年, 90~101ページ。
  89. 村井淳志 「タイの榮産事情」 14 卷 1 号, 1976年, 132~139ページ。
  90. 村田 源 “Contributions to the flora of Southeast Asia — IV. A list of labiatae known from Thailand.” 8 卷 4 号, 1971年, 489~517ページ。

91. ——— “Contributions to the flora of Southeast Asia — VI. Additions and corrections to the knowledge of labiatae in Thailand(1).” 14巻2号, 1976年, 177~193ページ。
92. 村田 源, 松本英二 “Natural vegetation and physiography of the Central Plain of Thailand.” 12巻3号, 1974年, 280~290ページ。
93. 百瀬静男 “Prothallia of the ferns from Thailand.” 6巻1号, 1968年, 73~167ページ。
94. 森下 薫 「タイ国における寄生虫問題」 3巻3号, 1965年, 52~69ページ。
95. 森山徐一郎 「タイ・マレーシアの鉱業について」 2巻4号, 1965年, 86~90ページ。
96. 吉住永三郎 「タイ・マレーシアにおける物理探鉱」 3巻2号, 1965年, 62~73ページ。
97. 渡辺弘之, Pairath Saichuae 「タイ国の森林土壌動物相に関する一研究」 4巻5号, 1967年, 127~160ページ。
98. 渡辺弘之, Pairath Saichuae, 四手井綱英 “On the biomass of soil animals found in various types of forests in Thailand.” 4巻1号, 1966年, 133~139ページ。
99. 渡部忠世 「タイ国の水稲栽培技術について」 2巻1号, 1964年, 25~42ページ。
100. ——— 「東南アジアにおける水稲増収上の二, 三の問題——特にタイ国を対象として」 5巻4号, 1968年, 49~59ページ。
101. ——— 「北タイにおける水稲の単位面積当り収量と収量の構成」 4巻5号, 1967年, 69~84ページ。
102. 渡部忠世, 秋浜友也 “Morphology of rice recovered ruins in Thailand.” 6巻2号, 1968年, 89~92ページ。
103. 渡部忠世, 秋浜友也, 木下収 “The alteration of cultivated rice in Thailand and Cambodia.” 8巻1号, 1970年, 36~45ページ。

### 2-3 ラオス

1. 中島暢太郎 「東南アジアの気候の特性について(2)——ラオス・タイ・マレーシア・シンガポールの大雨」 13巻2号, 1975年, 308~336ページ。
2. 藤吉慈海 「東南アジアの仏教調査報告——タイ・ラオス・マレーシア」 4巻3号, 1966年, 178~186ページ。

### 2-4 カンボジア

1. 石沢良昭 「カンボジア Préangkor 期の諸 titre について」 9巻1号, 1971年, 89~135ページ。
2. ——— 「古代カンボジアの王権と *dron vrah* (神の区域) (I) (II)」 11巻1号, 1973年, 49~61ページ。
3. 吉良竜夫, 穂積和夫 「南西カンボジアの森林調査」 3巻3号, 1965年, 140~150ページ。
4. 坂本恭章 「カンボジア語標準語とプノンペン方言」 6巻2号, 1968年, 48~78ページ。
5. ——— “i, i, ya, yā de Khmer ancien.” 7巻4号, 1970年, 492~503ページ。
6. 佐藤 孝 「農業を中心としたカンボジアの現状と将来」 1巻1号, 1963年, 55~64ページ。
7. 高橋英一 「タイ・マラヤ・カンボジアにおける稲作施肥をみて」 5巻1号, 1967年, 155~165

- ページ。
8. 高谷好一 “Observations on some pleistocene outcrops in Cambodia.” 5巻3号, 1967年, 122～137ページ。
  9. 服部共生, 久馬一剛, 川口桂三郎, 古川久雄「カンボジアの水田土壌作土の粘土鉱物組成と土壌の風化の程度」7巻1号, 1969年, 49～57ページ。
  10. 藤吉慈海 「カンボジアの仏教」6巻4号, 1969年, 179～197ページ。
  11. 渡部忠世, 秋浜友也, 木下 収 “The alteration of cultivated rice in Thailand and Cambodia.” 8巻1号, 1970年, 36～45ページ。

## 2-5 ベトナム

### 人文社会科学

1. 桜井由躬雄「嘉隆均田例の分析」14巻4号, 1977年, 513～539ページ。
2. ——— 「黎朝下ヴェトナム村落における漂散農民の分析(Ⅰ)上」15巻4号, 1978年, 552～572ページ。
4. 白石昌也 “Phan Boi Chau and Japan.” 13巻3号, 1975年, 427～440ページ。
4. ——— 「開明的知識人層の形成——20世紀初頭のベトナム」13巻4号, 1976年, 559～579ページ。
5. 高橋 保 「メコンデルタにおける土地所有と経済社会開発史」13巻2号, 1975年, 183～199ページ。
6. 辻井 博 「南ベトナムの米経済と米政策——統計的・実証的分析」13巻1号, 1975年, 19～44ページ。
7. ——— “Rice economy and rice policy in South Vietnam up to 1974——An economic and statistical analysis.” 15巻3号, 1977年, 263～294ページ。
8. 坪内良博, 前田成文 「チュー政権末期のメコンデルタ農村におけるリーダーシップ」13巻3号, 1975年, 455～469ページ。
9. 中野秀一郎「南ベトナム社会の構造と過程——1954～63」6巻1号, 1968年, 55～72ページ。
10. ——— 「最近のベトナム共和国における若干の専門的・技術的職業について」9巻3号, 1971年, 447～466ページ。
11. ——— 「最近のベトナム共和国における「海外留学」について——その一般的傾向と日本」10巻4号, 1973年, 613～648ページ。
12. 西村博行 「メコンデルタの農家経済における稲作経営分析と経営問題」13巻1号, 1975年, 127～145ページ。
13. ——— 「稲作経営における農業の技術・経済的知識の普及——メコン・デルタとチャオプラヤ河, ピン河流域における比較調査」14巻3号, 1976年, 389～407ページ。
14. ——— 「稲作経営における収益性要因の比較分析——メコン・デルタ, チャオプラヤ河流域とわが国(滋賀県)の農業経営調査結果より」15巻3号, 1977年, 334～346ページ。

### 自然科学

1. 海田能宏 “Hydrography of rice land in the Vietnamese part of the Mekong Delta.” 12巻

- 2号, 1974年, 143~156ページ。
2. ——— 「デルタ稲作農業の自然環境とデルタの開発構図」13巻1号, 1975年, 58~74ページ。
  3. 川合 尚 「メコンデルタ：その水系全体計画の中での位置づけ」13巻1号, 1975年, 161~180ページ。
  4. 高谷好一 “A physiographic classification of rice land in the Mekong Delta.” 12巻2号, 1974年, 135~142ページ。
  5. 多紀保彦 「デルタの魚相と内水面漁業」13巻1号, 1975年, 146~160ページ。
  6. 福井捷朗 “An agro-environmental study of the Vietnamese part of the Mekong Delta.” 12巻2号, 1974年, 157~176ページ。
  7. ——— 「メコンデルタの稲作の特質——その開発計画に対する Implication」13巻1号, 1975年, 112~126ページ。
  8. 松野 正 「農業開発阻害因子としてのメコンデルタの土壌条件」13巻1号, 1975年, 75~87ページ。
  9. Xuan, Vo-Tong “Rice cultivation in the Mekong Delta —— Present situation and potentials for increased production——.” 13巻1号, 1975年, 88~111ページ。

### 3. 島嶼部東南アジア

#### 3-1 マレーシア

##### 人文社会科学

1. 梅田輝世 「マラヤの女性——Kedah 州における現地調査」3巻5号, 1966年, 122~137ページ。
2. 口羽益生 「水稲作農村パダンララン——その自然条件と二期作化について」9巻4号, 1972年, 533~555ページ。
3. ——— 「米の二期作化に伴うパダンララン村の変貌と継続性」15巻3号, 1977年, 362~383ページ。
4. 口羽益生, 坪内良博 「マラヤ北西部の稲作農村——婚姻・離婚・家族の特質について」4巻1号, 1966年, 2~43ページ。
5. ——— 「マラヤ北西部の稲作農村——農業労働について」5巻1号, 1967年, 2~22ページ。
6. 口羽益生, 坪内良博, 前田成文 「マラヤ北西部の稲作農村——農地所有の零細化について」3巻1号, 1965年, 22~51ページ。
7. 滝沢英夫 「西マレーシア農村の保健と医療」10巻1号, 1972年, 86~104ページ。
8. 築島謙三 「マレー人の民族意識」3巻2号, 1965年, 36~46ページ。
9. ——— 「マラヤの村の自治——Kubang Siam——」4巻2号, 1966年, 63~77ページ。
10. 坪内良博 「マレー人の離婚——統計的分析の試み」4巻3号, 1966年, 69~90ページ。
11. ——— 「双系的親族構造をもつマレー系諸民族の離婚について」6巻4号, 1969年, 41~69ページ。

12. ——— 「マレー人の離婚が出生率に及ぼした影響について」 7巻3号, 1969年, 334~341ページ。
13. ——— 「クランタンの一農村におけるタバコ耕作の導入と社会・経済的変化」 9巻4号, 1972年, 556~576ページ。
14. ——— 「東海岸マレー農民における土地と居住」 10巻1号, 1972年, 60~76ページ。
15. ——— 「マレーシア東海岸の天水田地域における稲作——カンボン・ガロにおけるケース・スタディ」 10巻2号, 1972年, 214~233ページ。
16. ——— 「東海岸マレー農民における結婚と離婚」 10巻3号, 1972年, 390~408ページ。
17. ——— 「東海岸の村落住民の収入と収入源——カンボン・ガロにおけるケース・スタディ」 10巻4号, 1973年, 595~612ページ。
18. ——— 「クランタンの農村におけるポンド(寄宿宗教塾)——その変容と現状」 11巻2号, 1973年, 223~237ページ。
19. ——— 「クランタンの二つの農村——町に近いむらと遠いむらとの比較」 11巻4号, 1974年, 485~496ページ。
20. ——— 「マレー農村におけるイスラームと離婚」 13巻1号, 1975年, 3~18ページ。
21. 坪内良博, 前田成文 「マレー人家族における隔世代関係」 12巻4号, 1975年, 403~418ページ。
22. ——— 「マレー人家族における養子慣行」 13巻2号, 1975年, 228~236ページ。
23. Diffloth, Gerard "Towards a history of Mon-Khmer: Proto-Semai vowels." 14巻4号, 1977年, 463~495ページ。
24. 中野秀一郎 「現代マレーシアにおける政治的リーダーシップの史的的特性分析」 15巻2号, 1977年, 153~177ページ。
25. 日比野丈夫 「マラッカのチャイニーズ・カピタンの系譜」 6巻4号, 1969年, 88~108ページ。
26. ——— 「マラッカのチャイニーズ・カピタンの系譜——補遺二則」 9巻1号, 1971年, 58~60ページ。
27. Phin-Keong Voon "Rural land ownership and development in the Malay reservations of Peninsular Malaysia" 14巻4号, 1977年, 496~512ページ。
28. ——— "Evolution of ethnic patterns of rural land ownership in Peninsular Malaysia: A case study." 15巻4号, 1978年, 510~529ページ。
29. 藤本彰三 "A case study of human resources paddy farming in Kelantan." 12巻3号, 1974年, 350~364ページ。
30. ——— "An economic analysis of peasant rice farming in Kelantan, Malaysia." 14巻2号, 1976年, 159~176ページ。
31. 藤本勝次 「マラヤにおけるイスラム教育制度」 4巻2号, 1966年, 2~39ページ。
32. ——— 「マラヤにおけるムスリム行政の現状」 3巻2号, 1965年, 82~85ページ。
33. 藤吉慈海 「東南アジアの仏教調査報告——タイ・ラオス・マレーシア」 4巻3号, 1966年, 178~186ページ。
34. 藤原利一郎 「明・満刺加関係の成立と発展——初期満刺加国史の一側面的考察——」 6巻4号, 1969年, 109~129ページ。

35. 船越昭生 「古地図にあらわれたマラッカ——その出現とポルトガル・オランダ支配期の都市図」 6巻4号, 1969年, 130~154ページ。
36. 法貴 誠 “Farming operations and labor requirement for paddy cultivation in Sarawak, East Malaysia.” 15巻3号, 1977年, 457~471ページ。
37. 前田清茂 「マラヤ北西部における中国人集落の構造」 3巻5号, 1966年, 72~93ページ。4巻1号, 1966年, 44~64ページ。
38. 前田成文 「エンダウ川流域の Orang Hulu (Jakun) の家族覚え書」 3巻5号, 1966年, 156~161ページ。
39. ——— 「マレー半島におけるジャクンの親族名称」 4巻5号, 1967年, 32~51ページ。
40. ——— 「マラヤにおけるジャクン家族構成の特質」 5巻3号, 1967年, 29~49ページ。
41. ——— 「ジャクン (オラン・フル) の結婚と離婚」 6巻4号, 1969年, 70~87ページ。
42. ——— 「ジャクン・コミュニティの社会秩序」 7巻3号, 1969年, 342~362ページ。
43. ——— 「双系の親族組織におけるイトコ婚の一考察」 10巻4号, 1973年, 478~502ページ。
44. ——— 「マレー人の家族」 12巻1号, 1974年, 66~77ページ。
45. 水野浩一 “Comparative analysis of rural development——Rice-growing villages in Thailand Malaysia.” 15巻3号, 1977年, 398~420ページ。
46. 吉原久仁夫 「ASEAN 諸国における日本の合弁企業」 11巻1号, 1973年, 77~85ページ。
47. Rudner, Martin “The structure of government in the colonial federation of Malaya.” 13巻4号, 1976年, 495~512ページ。
48. ——— “Education, development and change in Malaysia.” 15巻1号, 1977年, 23~62ページ。
49. Lent, John A. “Malaysian Indians and their mass media.” 12巻3号, 1974年, 344~349ページ。
50. ——— “Malaysia’s national language mass media : history and present status.” 15巻4号, 1978年, 598~612ページ。
51. Winzeler, Robert L. “Ethnic differences and economic change in a local Malaysian setting.” 14巻3号, 1976年, 309~333ページ。

#### 自然科学

1. 赤井重恭, 大口富三 「イネの葉枯れ, 穂枯れ現象とそれらを原因する病原菌——II. タイ・マレーシアおよび台湾産罹病穂からの分離菌」 14巻1号, 1976年, 147~156ページ。
2. 河津一儀 「マレーシアにおける魚毒植物の調査採集」 3巻3号, 1965年, 161~165ページ。
3. 佐々江洋太郎, 西川義正 「マレーシアにおける乳用牛の生産性」 6巻4号, 1969年, 321~338ページ。
4. 清水建美 “Contributions to the flora of Southeast Asia——II. *Impatiens* of Thailand and Malaya.” 8巻2号, 1970年, 187~217ページ。
5. 鈴鹿恒茂, 港 種雄 「マレー西部地域における 2, 3 の鉄および錫鉱床について」 4巻2号, 1966年, 87~99ページ。

6. 高橋英一 「タイ・マラヤ・カンボジアにおける稲作施肥をみて」 5巻1号, 1967年, 155~165ページ。
7. 瀧本 清 「タイ・マレーシアの地質鉱床」 3巻1号, 1965年, 65~81ページ。
8. 中島暢太郎 「東南アジアの気候の特性について (2)——ラオス・タイ・マレーシア・シンガポールの大雨」 13巻2号, 1975年, 308~336ページ。
9. 新田あや 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅷ報)——クチンの中薬 (1)」 13巻2号, 1975年, 295~307ページ。
10. ——— 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅸ報)——クチンの中薬 (2)」 13巻4号, 1976年, 641~654ページ。
11. 富士岡義一, 海田能宏 「マラヤのかんがい排水事業と今後の課題」 6巻2号, 1968年, 109~134ページ。
12. 堀内孝次, S. J. Samy, C. C. Phang “Grain loss during hand harvesting in the rice cultivation in Kedah, West Malaysia.” 9巻2号, 1971年, 220~226ページ。
13. 松下 進 「マラヤ・キンタ谷の地形・地質——特にその地形発達について」 5巻2号, 1967年, 93~105ページ。
14. 森山徐一郎 「タイ・マレーシアの鉱業について」 2巻4号, 1965年, 86~90ページ。
15. ——— 「マレーシアにおける希土類元素資源について」 6巻1号, 1968年, 168~176ページ。
16. 吉住永三郎 「タイ・マレーシアにおける物理探鉱」 3巻2号, 1965年, 62~73ページ。
17. 吉住永三郎, 谷口敬一郎, 入江恒爾 「マラヤにおける物理探鉱」 4巻1号, 1966年, 111~121ページ。

### 3-2 シンガポール

1. 小島一郎, 多田一郎, 吉田集而, 新田あや 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅲ報)——シンガポールの中薬 (3)」 10巻2号, 1972年, 335~350ページ。
2. 中島暢太郎 「東南アジアの気候の特性について (2)——ラオス・タイ・マレーシア・シンガポールの大雨」 13巻2号, 1975年, 308~336ページ。
3. 新田あや 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅳ報)——シンガポールの中薬 (4)」 11巻1号, 1973年, 107~129ページ。
4. 新田あや, 吉田集而 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅰ報)——シンガポールの中薬 (1)」 9巻4号, 1972年, 597~614ページ。
5. ——— 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅱ報)——シンガポールの中薬 (2)」 10巻1号, 1972年, 105~120ページ。
6. ——— 「東南アジアにおける生葉の比較研究 (第Ⅴ報)——シンガポールの中薬 (5)」 11巻2号, 1973年, 256~266ページ。
7. 吉原久仁夫 「ASEAN 諸国における日本の合弁企業」 11巻1号, 1973年, 77~85ページ。
8. ——— 「シンガポールの工業化と米系企業」 12巻4号, 1975年, 489~506ページ。
9. ——— 「シンガポール工業化における外資系企業と民族系企業」 13巻2号, 1975年, 237~254ページ。



10. 吉原久仁夫, 足立恭一郎 「日本の海外企業進出——韓国, 台湾, 香港, シンガポール」12巻2号, 1974年, 232~253ページ。

### 3-3 インドネシア

#### 人文社会科学

1. 市村真一 「南スマトラ州の経済事情——LEKNAS-KYODAI 共同調査報告 I」10巻3号, 1972年, 370~389ページ。
2. 市村真一, 水野浩一, 坪内良博, 浅野俊夫, Prasert Yamklifung, M. R. W. Akin Rabibhadana, Yut Sakdejayont, Mubyarto, Masuri Singarimbun “The socio-economic behavior of peasants in central Java and central Thailand——A summary report.” 12巻3号, 1974年, 322~343ページ。
3. 金子敬生 「インドネシアの産業連関分析」11巻1号, 1973年, 62~76ページ。
4. 小林一三 「インドネシア経済の研究方向に関する一考察——予備調査から帰って」8巻2号, 1970年, 267~275ページ。
5. Koentjaraningrat 「インドネシア社会科学の現況」8巻1号, 1970年, 123~129ページ。
6. 口羽益生 「ジャワ人の世界観」2巻2号, 1964年, 2~12ページ。
7. 酒井敏明 「インドネシアにおけるプランテーション農業の問題点」3巻5号, 1966年, 110~121ページ。
8. 崎山 理 「マライ・ポリネシア語族におけるブリ語（ハルマヘラ島）の系統」7巻3号, 1969年, 274~292ページ。
9. 白石愛子 「ブリタル反日蜂起の史的考察」13巻4号, 1976年, 535~558ページ。
10. 田中則雄 「スンダ（西ジャワ）の貴族（menak）について」10巻3号, 1972年, 409~421ページ。
11. 土屋健治 「スカルノの研究——パンチャ・シラ成立の過程」8巻4号, 1971年, 566~579ページ。
12. ——— 「スカルノとハッタの論争」9巻1号, 1971年, 61~88ページ。
13. ——— 「サミン運動とインドネシア民族主義」9巻2号, 1971年, 236~253ページ。
14. ——— 「スカルノとイスラム（1974年~1942年）」9巻4号, 1972年, 577~596ページ。
15. ——— 「スカルノの第二次世界大戦論」10巻2号, 1972年, 234~245ページ。
16. ——— 「タマン・シスワの研究——「民族主義と指導性」理念について」12巻2号, 1974年, 193~210ページ。
17. ——— 「「原住民委員会」をめぐる諸問題——支配と抵抗の様式に関連して」15巻2号, 1977年, 131~152ページ。
18. ——— 「ジャワ知識人の西欧認識をめぐる諸問題（1913年~1922年）」15巻4号, 1978年, 530~551ページ。
19. 坪内良博 「日本人の目からみたインドネシア人勤労者」15巻2号, 1977年, 178~192ページ。
20. ——— 「日系合弁企業工場におけるインドネシア作業員」15巻3号, 1977年, 384~397ページ。

21. 坪内玲子 「ジャカルタの日本人と家事使用人——対人関係における期待の齟齬をめぐって」15巻1号, 1977年, 63~78ページ。
22. 中村光男 「ジョグ・ジャカルタ市コタグデにおける社会人類学調査の予備報告」10巻3号, 1972年, 466~476ページ。
23. 永積 昭 「アメリカおよびオランダにおけるインドネシア研究の現況」6巻1号, 1968年, 177~183ページ。
24. 西原 正 「インドネシア「新秩序」とその政治的近代化」11巻2号, 1973年, 171~190ページ。
25. ——— 「インドネシアにみる統治スタイルの連続性」12巻4号, 1975年, 436~457ページ。
26. 西村博行 「インドネシアの農家における農業技術・経済情報の普及——ジャワ島における実態調査結果の比較」12巻4号, 1975年, 458~477ページ。
27. 野口英雄 「中部ジャワの仏教遺跡——北プラオサンの方位について」6巻4号, 1969年, 339~358ページ。
28. 前田成文 「コミュニティ宗教におけるシンボル——南スラウェシ省アンパリタにおける事例」14巻3号, 1976年, 408~432ページ。
29. 本岡 武 「インドネシア農業開発の新転機——とくに米増産計画をめぐって」10巻3号, 1972年, 451~465ページ。
30. 矢野 暢 「堤林数衛の精神的「回心」——「南方関与」の近代的類型」15巻3号, 1977年, 307~333ページ。
31. 吉原久仁夫 「ASEAN 諸国における日本の合弁企業」11巻1号, 1973年, 77~85ページ。

## 自然科学

1. 石崎澁雄 「フィリピン・タイ・インドネシアにおける強風について」10巻1号, 1972年, 121~130ページ。
2. 岩槻邦男 「Pteridophytes of northern Sumatra——A report of botanical trip in 1971.」11巻2号, 1973年, 277~296ページ。
3. 大矢雅彦 「衛生写真判読による小縮尺地形分類図の試作——ジャワ島東部の場合」13巻3号, 1975年, 470~480ページ。
4. 大山良徳 「タイおよびインドネシアにおける青少年の体力に関する調査報告」11巻1号, 1973年, 148~163ページ。
5. 大山良徳, 村井淳志, 松浦義行 「児童の体力差に関する分析的研究——日本・タイ・インドネシア児童相互間の比較」14巻1号, 1976年, 29~48ページ。
6. 金山清一 「インドネシアの錫花コウ岩と漂砂錫鉱床——とくにバンカ・ピリトン島を中心として」11巻3号, 1973年, 321~337ページ。
7. 木島正夫, 永井吉澄 「スマトラならびにシャム安息香について」7巻1号, 1969年, 40~48ページ。
8. 佐藤 孝 「赤道多雨地帯の開発とスマトラ・ランボン州のメイズ栽培」7巻3号, 1969年, 412~419ページ。

9. ——— 「インドネシアの食用マメ科植物」15巻3号, 1977年, 452~456ページ。
10. 田中 明, 岡島秀夫, 四方英四郎, 山田芳雄 “A note on nutritional disorders of the rice plant in Java, Indonesia.” 8巻3号, 1970年, 418~426ページ。
11. 福井捷朗, 服部共生 “Agricatures of six villages in central Thailand and central Java.” 12巻3号, 1974年, 308~321ページ。
12. 古谷尊彦 “Preliminary report of some volcanic disasters in Indonesia.” 15巻4号, 1978年, 591~597ページ。
13. 堀田 進 「インドネシアにおけるウイルスの感染の血清疫症学的研究——医学地理学的考察」11巻1号, 1973年, 86~106ページ。
14. 松浦義行, 大山良徳, 村井淳志 “A comparative study on physical fitness of children of three nations: Japanese, Thai and Indonesian.” 12巻3号, 1974年, 383~400ページ。
15. 松本英二, Suvijanto “Land use pattern in Indonesia.” 11巻4号, 1974年, 525~531ページ。
16. 松本英二, Suvijanto, 海田能宏, 高谷好一 “Environmental conditions of three representative villages in central Java.” 12巻3号, 1974年, 300~307ページ。
17. 美濃口玄, 佐藤 匠, 吉武一貞, 人見権次郎 「熱帯地方における歯牙フッ素発症関に関する研究——Indonesia (Java 島)における調査研究——」10巻1号, 1972年, 2~31ページ。
18. 向井 滋, 港 種雄, 中広吉孝, 金山清一 「インドネシアの錫およびニッケル鉱業について」9巻4号, 1972年, 615~632ページ。
19. 山口真一 “Landslides in Southeast Asia.” 5巻3号, 1967年, 181~186ページ。
20. 山田 勇 “Forest ecological studies of the montane forest of Mt. Pangrango, West Java——I. Stratification and floristic composition of montane rain forest near Cibodas.” 13巻3号, 1975年, 402~426ページ。
21. ——— “Forest ecological studies of the montane forest of Mt. Pangrango, West Java——II. Stratification and floristic composition of the forest vegetation of the higher part of Mt. Pangrango.” 13巻4号, 1976年, 513~534ページ。
22. ——— “Forest ecological studies of the montane forest of Mt. Pangrango, West Java——III. Litter fall of the tropical montane forest near Cibodas.” 14巻2号, 1976年, 194~229ページ。
23. ——— “Forest ecological studies of the montane forest of Mt. Pangrango, West Java IV. Floristic composition along the altitude.” 15巻2号, 1977年, 226~254ページ。
24. 吉田集而 「北スマトラ Tapanuli 地方における安息香の栽培とその市場品」9巻3号, 1971年, 420~446ページ。
25. ——— 「ケイヒ類生薬に関する研究 (第I報)——西スマトラにおけるケイヒの栽培状況について」12巻1号, 1974年, 121~132ページ。

### 3-4 フィリピン

1. 石崎隆雄 「フィリピン・タイ・インドネシアにおける強風について」10巻1号, 1972年, 121

～130ページ。

2. 岩槻邦男 「しだ植物の分布からみた台湾とフィリピン」15巻3号, 1977年, 430～441ページ。
3. 岩槻邦男, Michael G. Prige “The pteridophytes of Mt. Burnay and vicinity, northern Luzon.” 14巻4号, 1977年, 540～572ページ。
4. 江崎光男 “Growth accounting of the Philippines: The demand-for-output side.” 15巻1号, 1977年, 3～22ページ。
5. 岡川長郎 「ルソン島中央平野の地形発達史的解析と水田土壌採取地点の特性について」8巻1号, 1970年, 113～122ページ。
6. 嘉田良平 「フィリピンにおける企業の農業成立のメカニズム——中部ルソン蔬菜作農村での実態調査より」11巻3号, 1973年, 382～402ページ。
7. Sobelano, Rawlein G. “The Philippine statehood movement—A resurrected illusion, 1970-1972.” 13巻4号, 1976年, 580～587ページ。
8. 中島暢太郎 「東南アジアの気候の特性について(1)——フィリピンの大雨」11巻1号, 1973年, 130～147ページ。
9. 中村重久 「1976年8月のミンダナオ島南部の地震と津波について」15巻1号, 1977年, 95～109ページ。
10. ——— “On statistical tsunami risk of the Philippines.” 15巻4号, 1978年, 581～590ページ。
11. Mears, Leon A., Teresa L. Anden “Who benefits from the post harvest rice price rise?” 9巻4号, 1972年, 484～501ページ。
12. 森口恒一 「タガログ語のアクセントに関する覚え書き——物理アクセントと心理アクセント」15巻1号, 1977年, 79～94ページ。
13. 古川洋子 「フィリピンの政治的正当性の一考察——変革への試練」14巻2号, 1976年, 230～269ページ。

#### 4. その他の地域

1. 岩槻邦男 「しだ植物の分布からみた台湾とフィリピン」15巻3号, 1977年, 430～441ページ。
2. 岡田誠太郎, 中井栄一, 伊藤邦幸 「インドのライ症状について」6巻4号, 1969年, 359～370ページ。
3. 久馬一剛, 高谷好一 “Black soils in eastern India.” 6巻4号, 1969年, 247～256ページ。
4. 大島正夫, 田端 守, 平岡 昇, Daroon Pecharaply 「タイとインドに共通する薬用植物の効用に関する文献的比較調査」15巻2号, 1977年, 255～262ページ。
5. 高谷好一 “Observations of some pleistocene outcrops in Ceylon.” 6巻2号, 1969年, 79～88ページ。
6. 高谷好一, 久馬一剛 「インドにおける水田土壌試料採取地点の地形発達史的的位置について」6巻3号, 1968年, 144～155ページ。
7. ——— 「セイロンにおける水田土壌試料採取地点の地形発達史的的位置について」7巻2

- 号, 1969年, 198~208ページ。
8. 坪内良博 “Estimation of child mortality, the birth rate, the death rate, and total fertility in the New Hebrides.” 7巻2号, 1968年, 191~197ページ。
  9. 原 忠彦 「東パキスタン・チッタゴン地区モスLEM村落における職業と価値観」7巻1号, 1969年, 58~75ページ。
  10. 古川久雄 「ニューアイルランド島における土壌地理学的観察」11巻4号, 1974年, 532~544ページ。
  11. 吉原久仁夫, 足立恭一郎 「日本の海外企業進出——韓国, 台湾, 香港, シンガポール」12巻2号, 1974年, 232~253ページ。

#### 4. リプリント・シリーズ (\*印は在庫なし)

##### 社会科学

- S-1\* Shinichi Ichimura, “Postwar Japan in the World Economy,” in *Japanese Economy*, 1968.
- S-2\* Yasukichi Yasuba, “The Significance and Methods of Research on Demographic History— from the Viewpoint of Development Economics,” in *Keizaishi ni okeru Jinko*, 1969. (in Japanese)
- S-3 Matthew Forrest and Kunio Yoshihara, “Japan’s Dependence on Exports in Contrast with That of Six Other Nations,” in *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol. 10, No. 1, June 1969.
- S-4 Kunio Yoshihara, “Long-Term Models of the Japanese Economy,” in *The Economic Studies Quarterly*, Vol. 20, No. 3, December 1969.
- S-5\* Kunio Yoshihara, “Demand Functions: An Application to the Japanese Expenditure Pattern,” in *Econometrica*, Vol. 37, No. 2, April 1969.
- S-6 Yoneo Ishii, “Two Phases of ‘sasanupathamphok,’ Defender of the Faith: A Case Study of King Rama I,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 7, No. 4, 1970. (in Japanese)
- S-7 Toru Yano, “Range of Marriage in Southern Thailand—A Case Study in a Thai-Islam Community,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 7, No. 4, 1970. (in Japanese)
- S-8 Yoshihiro Tsubouchi, “Changes in Fertility in Japan by Region: 1920–1965,” in *Demography*, Vol. 7, No. 2, 1970.
- S-9\* Yoneo Ishii and Yoshihiro Tsubouchi, “Regional Patterns of Kaan Bua: (Entering the Sangha) in Thailand,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 1, 1970. (in Japanese)
- S-10 Makio Katsura, “An Outline of the Structure of the Akha Language (Part 1)—Introduction and Phonemics—,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 1, 1970.
- S-11 Toru Yano, “Southern Thai Muslims’ Temporary Residence Outside Their Villages: A Case Study,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 2, 1970. (in Japanese)
- S-12\* Shinichi Ichimura, “The Challenge of the Rising Sun,” in *Quadrant*, Vol. 14, No. 6, 1970.
- S-13\* Yasukichi Yasuba, “A Revised Index of Industrial Production for Japan, 1905—1935,” in *Osaka Economic Papers*, Vol. 19 (1/2), No. 34, 1971.

- S-14 Toru Yano, "Economic Life of Rural Villages in Southern Thailand—An Observation in a Thai-Islam Community—," in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 4, 1971. (in Japanese)
- S-15 Takeshi Motooka, "Methods and Problems of Researches on Agricultural Development in Southeast Asia," in *Studies on Agricultural Economics*, Vol. 42, No. 4, 1971. (in Japanese)
- S-16 Takeshi Motooka, "Agricultural Development and Agricultural Education in Southeast Asia," in Memorial Publication for Prof. S. Kashiwa, *Treaties on Modern Agricultural Science*, 1971. (in Japanese)
- S-17 Kunio Yoshihara, Kenichi Furuya and Takao Suzuki, "The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index," in *Journal of the American Statistical Association*, March 1971.
- S-18 Yoneo Ishii, "Seventeenth Century Japanese Documents about Siam," in *Journal of the Siam Society*, Vol. 59, Part 2, 1971.
- S-19 Takeshi Motooka, "Agricultural Geography and Agricultural Development in Developing Countries," in Memorial Publication for Prof. T. Oda. (in Japanese) 『人文地理学論叢』より抜刷.
- S-20 Yoneo Ishii, "Theravada Buddhism in Sukhothai Inscriptions," in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 1, 1971. (in Japanese)
- S-21 Toru Ohno, "Dedications of the Buddhist Burman during Pagan, Pinya and Ava Periods," in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 1, 1971. (in Japanese)
- S-22 Koichi Mizuno, "Family Cycle and Village Structure—A Rice-Growing Village in Northeast Thailand—," in *Soshioroji*, Vol. 17, No. 1/2, 1971. (in Japanese)
- S-23 Takeshi Motooka, "International Cooperation for Education and Research on Tropical Agriculture," *Education and Research on Tropical Agriculture*, 1971. (in Japanese)
- S-24 Yoshihiro Tsubouchi, "Kinship and Marital Stability among Japanese Peasants in the Past—a re-examination," *Soshioroji*, Vol. 17, No. 1/2, 1971. (in Japanese)
- S-25 Toru Ohno, "Curses of the Buddhist Burman during Pagan, Pinya and Ava Periods," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 2, 1971. (in Japanese)
- S-26 Yoneo Ishii, "The Social Structure of Thai Buddhism," *Ajia Keizai*, Vol. 12, No. 12, 1971. (in Japanese)
- S-27 Toru Ohno, "The Social Structure of Burma during Pagan, Pinya and Ava Periods," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 3, 1971. (in Japanese)
- S-28 Kunio Yoshihara, "Nationalism and the Philippine Economy," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 3, 1971. (in Japanese)
- S-29\* Yasukichi Yasuba, "Dual Structure," *Development of the Modern Economy*, 1971. (in Japanese)
- S-30\* Kunio Yoshihara, "A Study of Philippine Manufacturing Corporations," *The Developing Economies*, Vol. 9, No. 3, 1971.
- S-31 Kunio Yoshihara, "The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio," *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol. 12, No. 2, 1972.
- S-32 Kunio Yoshihara and Tait Ratcliffe, "Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65," in *The Economic Studies Quarterly*, Vol. 23, No. 1, 1972.

- S-33 Yasukichi Yasuba, Modern Economists' Views on the Japanese Economy—A Survey, in *Japanese Economic Studies*, Vol. 1, No. 2, Winter 1972-73.
- S-34 Toru Yano, Multipolarization of the International System and Transformation of Regional Subordinate Systems—Prospects for Regionalism in Southeast Asia, in *Kokusai Seiji*, No. 48, 1973. (in Japanese)
- S-35 Toru Yano, Some Characteristics of Political Leadership in Thailand: Sarit Thanarat's "Revolutionary Party Edicts," in *The Developing Economies*, X-3, September 1972.
- S-36 Mitsuo Ezaki and D.W. Jorgenson, Measurement of Aggregate Productivity Change 1951-1968, in *K. Ohkawa & Y. Hayami (eds.), Nihon Keizai no Choki Bunseki*, 1973. (in Japanese)
- S-37 Shinichi Ichimura, Takao Fukuchi and Noboru Sakashita, The Present State of Research on Urbanization and its Effect on Cultural Changes in ASPAC Member Countries—A Bibliography Survey—, in *Asian Pacific Quarterly of Cultural and Social Affairs*, Vol. IV. No. 1, Summer 1972.
- S-38\* Shinichi Ichimura, Japanese Entrepreneurship in the Early Stage of Economic Development, in *Asian Profile*. Vol. 2, No. 1, February 1974.
- S-39\* Koichi Mizuno, Family and Religion in Thailand, in *Asia Bunka*, Vol. 11, No. 4, March 1975.
- S-40 Narifumi Maeda, Family Circle, Community, and Nation in Malaysia, in *Current Anthropology*, Vol. 16, No. 1, March 1975.
- S-41\* Toru Yano, The Political Elite Cycle in Thailand, in *The Developing Economies*, Vol. XII, No. 4, December 1974.
- S-42 Mitsuo Ezaki, Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan: 1952-1980, in *The Economic Studies Quarterly*, Vol. XXVI, No. 3, December 1975.
- S-43\* Yasukichi Yasuba, Anatomy of the Debate on Japanese Capitalism, in *The Journal of Japanese Studies*, Vol. 2, No. 1, Autumn 1975.
- S-44 Shinichi Ichimura, Interdisciplinary Research and Area Studies, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, September 1975.
- S-45 Yoneo Ishii, A Note on Buddhistic Millenarian Revolts in Northeastern Siam, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, September 1975.
- S-46 Koichi Mizuno, Thai Pattern of Social Organization: Note on a Comparative Study, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2 September 1975.
- S-47 Yoshihiro Tsubouchi, Marriage and Divorce among Malay Peasants in Kelantan, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. No. 2, September 1975.
- S-48 Mitsuo Ezaki, On the Two-Gap Analysis of Foreign Aid, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, September 1975.
- S-49 Kenji Tsuchiya, The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years and Javanese Background, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, September 1975.
- S-50 Narifumi Maeda, The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat, in *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, September 1975.
- S-51 水野浩一「家族・親族集団の国際比較—タイ国と日本」『社会評論』第26巻第3号, 1976.

- S-52 Yasukichi Yasuba, The Evolution of Dualistic Wage Structure, in *Japanese Industrialization and its Social Consequences*, ed. by Hugh Patrick, University of California Press, 1976.
- S-53\* Kenji Tsuchiya, Gerakan Taman Siswa—Delapan Tahun Pertama dan Latar Belakang Jawa Taman Siswa, in *Indonesia: Masalah dan Peristiwa Bunga Rampai*, Yayasan Obor and Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 1976.
- S-54 Yasukichi Yasuba, Freight Rates and Productivity in Ocean Transportation for Japan, 1875–1943, in *Explorations in Economic History*, Vol. 15, No. 1, January 1978.
- S-55 Mitsuo Ezaki, Economic Theory and Social Accounting System, in *The Journal of Philippine Development*, Vol. III, No. 2 (Second Semester 1976).
- S-56 Kunio Yoshihara, Determinants of Japanese Investment in South-East Asia, in *International Social Science Journal*, Vol. XXX, No. 2, 1978.
- S-57 Yasukichi Yasuba, Imported Inflation and the Upward Revaluation of the Yen, 1965–1974, in *Breadth and Depth in Economics*, ed. by Jacob S. Dreyer, 1978.

#### 自然科学

- N-1\* Hayao Fukui and Eiichi Takahashi, “Rice Culture in the Central Plain of Thailand (II)—Yield Components Survey in the Saraburi-Ayutthaya Area, 1967—”, in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 7, No. 2, 1969.
- N-2 Yoshikazu Takaya, “Topographical Analysis of the Southern Basin of the Central Plain, Thailand,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 7, No. 3, 1969.
- N-3 Hayao Fukui, “Rice Culture in the Central Plain of Thailand (III)—A Review of Rice Experiments in Thailand,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 7, No. 3, 1969.
- N-4 Yoshikazu Takaya, “Topographical Control over the Agriculture in the Mac Nam Delta,” in *Japan Agricultural Research Quarterly*, Vol. 4, No. 4, 1969.
- N-5 Tomoo Hattori, “Some Properties of Soils and Substrata in the Lampang Basin,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 7, No. 4, 1970.
- N-6\* Tadayo Watabe, Tomoya Akihama and Osamu Kinoshita, “The Alteration of Cultivated Rice in Thailand and Cambodia,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 1, 1970.
- N-7 Hayao Fukui and Eiichi Takahashi, “Rice Culture in the Central Plain of Thailand (IV)—Response to Nitrogen of Some Native Varieties under Field Conditions—”, in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 1, 1970.
- N-8 Tem Smitinand, Tatemi Shimizu, Hiroshige Koyama and Nobuyuki Fukuoka, “Contributions to the Flora of Southeast Asia—I. Taxonomy and Phytogeography of Some Temperate Species in Thailand,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 2, 1970.
- N-9 Tatemi Shimizu, “Contributions to the Flora of Southeast Asia—II. Impatiens of Thailand and Malaya,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 2, 1970.
- N-10 Nobuyuki Fukuoka, “Contributions to the Flora of Southeast Asia—III. Hedyotis (Rubiaceae) of Thailand,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 3, 1970.
- N-11 Tomoya Akihama and Tadayo Watabe, “Geographical Distribution and Ecotypic Differentiation of Wild Rice in Thailand,” in *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 3, 1970.



- N-12 Gen Murata, "Contributions to the Flora of Southeast Asia—IV. A List of Labiatae Known from Thailand," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 4, 1971.
- N-13 Hayao Fukui and Eiichi Takahashi, "Rice Culture in the Central Plain of Thailand (V)—Possibility of Higher Yield viewed from the Yield Component Surveys in Farmers' Fields," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 8, No. 4, 1971.
- N-14 Yoshikazu Takaya, "Two Brackish Clay Beds along the Chao Phraya River of Thailand," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 1, 1971.
- N-15 Kazutake Kyuma, "Climate of South and Southeast Asia according to Thornthwaite's Classification Scheme," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 1, 1971.
- N-16 Jisaburo Ohwi, "Contributions to the Flora of Southeast Asia—V. Gramineae and Cyperaceae of Thailand," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 2, 1971.
- N-17 Takatsugu Horiuchi, S.J. Samy and C.C. Phang, "Grain Loss during Hand Harvesting in the Rice Cultivation in Kedah, West Malaysia," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 2, 1971.
- N-18\* Yoshihiro Kaida, "An Analysis of the Effect of Environmental Factors on Paddy Rice Yields—A Case Study from the Northern Region of the Greater Chao Phraya Project," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 2, 1971.
- N-19 Hayao Fukui, "Environmental Determinants Affecting the Potential Dissemination of High Yielding Varieties of Rice—A Case Study of the Chao Phraya River Basin," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 3, 1971.
- N-20 Yoshikazu Takaya, "Physiography of Rice Land in the Chao Phraya Basin of Thailand" *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 3, 1971.
- N-21 Tomoo Hattori, "The Quaternary Stratigraphy in the Northern Basin of the Central Plain, Thailand," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 3, 1971.
- N-22\* Kazutake Kyuma, "Numerical Classification of the Climate of South and Southeast Asia," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 4, 1972.
- N-23 Tomoo Hattori, "Some Properties of Brackish Sediments along the Chao Phraya River of Thailand," *Tonan Ajia Kenkyu*, Vol. 9, No. 4, 1972.
- N-24\* Kazutake Kyuma and Keizaburo Kawaguchi, "A Method of Fertility Evaluation for Paddy Soils," in *Soil Science and Plant Nutrition*, Vol. 19, No. 1, 1973.
- N-25 Yoshikazu Takaya, "An Ecological Interpretation of Thai History," *Journal of Southeast Asian Studies*, Vol. VI, No. 2, September 1975.
- N-26 高谷好一・友杉孝「東北タイの水田」『アジア経済』13巻9号, 14巻2号, 15巻11号および『東南アジア研究』10巻1号より抜刷合本, 1976.
- N-27 Yoshikazu Takaya, "The Agriculture of Nepal: Its ecology and historical development," in *Monumenta Serindica No. 1: Changing Aspects of Modern Nepal*, ed. by S. Iijima, 1977.
- N-28 Kazutake Kyuma, Yoon-Soo Suh, and Keizaburo Kawaguchi, "A Method of Capability Evaluation for Upland Soils," in *Soil Sci. Plant Nutr.*, Vol. 23, 1977.

## 5. ディスカッション・ペーパー (\*印は在庫なし)

- No. 1\* Kunio Yoshihara, *The Application of Alternative Demand Models to the Japanese Expenditure Pattern*, 1969.
- No. 2\* Kunio Yoshihara, *The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio* 1969.
- No. 3\* Kunio Yoshihara, *A Theory of Cost of Living and Real Income*, 1969.
- No. 4 Shinichi Ichimura, et al., *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy: Chapter III—Detailed Discussion of the Model*, 1969.
- No. 5\* Kunio Yoshihara, et al., *The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index*, 1969.
- No. 6\* Shinichi Ichimura, et al., *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy: Chapter II—Outline of the Osaka Model*, 1969.
- No. 7\* Shinichi Ichimura, et al., *Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy: Chapter VI—The Compilation of Data*, 1969.
- No. 8\* Kunio Yoshihara and Tait Ratcliffe, *Productivity Change in the Japanese Economy, 1905–65*, 1970.
- No. 9\* Shinichi Ichimura, *The Challenge of Rising Sun*, 1970.
- No. 10 Mitsuo Ezaki and Dale W. Jorgenson, *The Measurement of Productivity Change in the Japanese Economy, 1952–1966*, 1971.
- No. 11\* Yoneo Ishii, *Ecclesiastical Examination in Thailand*, 1971.
- No. 12\* Koichi Mizuno, *Social System of Don Daeng Village: A Community Study in Northeast Thailand*,  
No. 22 1971.
- No. 23 Narifumi Maeda, *Economic Activities among the Orang Hulu*, 1971.
- No. 24 Narifumi Maeda, *Authority and Leadership among the Orang Hulu*, 1971.
- No. 25\* Mitsuo Ezaki, *A Note on the Measurement of Productivity Change*, 1971.
- No. 26\*  
} Takehi Motooka, *Agricultural Development in Thailand*, 1971.
- No. 29\*
- No. 30\* Koichi Mizuno, *For a Comparative Study on “Industrialization and Rural Communities”* (with an illustration of Rural Japan), 1971.
- No. 31\* Yasukichi Yasuba, *Revaluation of Yen—A Strategy for Equitable and Realistic Revaluation*, 1971.
- No. 32\* Takeshi Motooka, *Responsibility of Agricultural Education in Southeast Asian Development*, 1971.
- No. 33\* Hiroshi Tsujii, *An Econometric Analysis of the Effects of Technological Improvements in Rice Production on Rice Trade among Thailand, Indonesia and the World*, 1971.
- No. 34\* Kazutake Kyuma and Keizaburo Kawaguchi, *Fertility Evaluation of Paddy Soils in South and Southeast Asia—First Approximation: Chemical Potentiality Rating—*, 1971.
- No. 35\* LEKNAS-KYODAI, *The First Preliminary Report of the Economic Survey of South Sumatra—The Pilot Survey and its Findings—*1972.
- No. 36\* LEKNAS-KYODAI, *A Survey of Gross Provincial Product Estimation for South Sumatra Province 1970*, 1972.

- No. 37\* Panangaran Hutabarat, *The Estimation of Value added in Finance Sector of South Sumatra, Indonesia, 1970*, 1972.
- No. 38\* Koichi Mizuno, *Japanese Scholarship on Southeast Asian Villages—A Socio-Anthropological View—*, 1972.
- No. 39\* Takeshi Motooka, *The Role of Rural Institutions, Especially of Farmers' Organization, in Asian Rural Development*, 1972.
- No. 40\* Kazutake Kyuma and Keizaburo Kawaguchi, *Fertility Evaluation of Paddy Soils in South and Southeast Asia—Second Approximation: Evaluation of Three Independent Constituents of Soil Fertility*, 1972.
- No. 41 Julian Luthan, *Value added of the Mining and Quarrying Industries in South Sumatra, 1970*, 1972.
- No. 42\* Thee Kian Wie, *An Estimation of Gross Value added of Commerce in the Province of South Sumatra in 1970*, 1972.
- No. 43\* Panangaran Hutabarat, *An Estimation of Gross Value added of Electricity, Gas, and Water Supply and of Ownership of Dwelling in the Province of South Sumatra in 1970*, 1972.
- No. 44\* Muchtarudin Siregar and Januar Batubara, *The Estimation of Value added of the Transport and Communications Sector in South Sumatra in 1970*, 1972.
- No. 45\* J.L. Tamba, *Estimation of Regional Income Originating from the Government Sector in South Sumatra, 1970*, 1972.
- No. 46\* Takeshi Motooka, *Basic Problems of Industrial Development in Relation to the Agricultural Sector in Southeast Asia*, 1972.
- No. 47\* Takeshi Motooka, *Some Observations on the Green Revolution in India: A Brief Report of the Invitation Trip of Indian Government in November and December of 1971*, 1972.
- No. 48 Mitsuo Ezaki, *Two Notes: I. On the Theory of National Accounting. II. Quality Indexes of Capital, Labor and Output in the Measurement of Productivity Change*, 1972.
- No. 49\* Shinichi Ichimura, *Institutional and Methodological Problems on Multidisciplinary Research in Asian Area Studies*, 1972.
- No. 50\* Julian Luthan, *An Estimation of Gross Value Added of the Manufacturing and Construction in 1970*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 9, 1972.
- No. 51\* Basir Kimin, *The Service Sector of South Sumatra, 1970*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 10, 1972.
- No. 52\* Thee Kian Wie, *An Estimation of Gross Value Added of the Agricultural Sector in the Province of South Sumatra in 1970*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 11, 1972.
- No. 53\* Yoneo Ishii, Osamu Akagi and Noriko Endo, *A Glossarial Index of the Sukhothai Inscriptions*, 1972.
- No. 54\* Yoshihiro Kaida, *Mathematical Models on the Optimization of the Amounts and the Scheduling of Intraseasonal Irrigation, and Cropping Patterns*, 1972.
- No. 55\* Thee Kian-Wie, *Report on the Main Field Survey*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 12, 1972. (with Statistical Appendix)

- No. 56 Thee Kian Wie, *Revised Summary of Gross Provincial Product Estimation for the Province of South Sumatra, 1970*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 13, 1972.
- No. 57 Thee Kian Wie, *South Sumatra's External Trade in 1970*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 14, 1973.
- No. 58\* Mitsuo Ezaki, *The Two-Gap Analysis of Foreign Aid: A Comment on the Chenery-Strout Model*, 1973.
- No. 59 Thee Kian Wie, *An Estimation of Private Consumption in South Sumatra in 1970*, LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 15, 1973.
- No. 60\* Yoshihiro Tsubouchi, *A Collection of Socio-Economic Data of a Malay Village in Kelantan*, 1973.
- No. 61\* Shinichi Ichimura, *Interdisciplinary Research and Area Studies*, 1973.
- No. 62\* Shinichi Ichimura and Toru Yano, *Books on Japan —An Assorted Bibliography*, 1973.
- No. 63 Shinichi Ichimura, *Japanese Entrepreneurship in the Early Stage of Economic Development*, 1973.
- No. 64\* Koentjaraningrat, *Village Life South of Jakarta —Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia"*, 1973.
- No. 65\* Yut Sakdejayont, *Village Life Near Bangkok—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia"*, 1973.
- No. 66\* Shinichi Ichimura, *Japan's Stake in Asia*, 1973.
- No. 67 J.L. Tamba, *The Estimation of Capital Formation in South Sumatra, 1970*, 1973.
- No. 68\* Yasukichi Yasuba, *The Evolution of Dualistic Wage Structure*, 1973.
- No. 68\* R. Santos Cuyugan and M. Flores Bonifacio, *Rural Philippine Communities: A Case Study of the Impact of Industrialization—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia"*, 1973.
- No. 70\* Narifumi Maeda, *Abstract—The Changing Peasant World in a Melaka Village: Islam and Democracy in the Malay Tradition*, 1974.
- No. 71 Mitsuo Ezaki, *A Complete System of Private Accounts*, 1974.
- No. 72\* Mitsuo Ezaki, *An Econometric Model and Simulation Analyses for Postwar Japan's Aggregate Economy, 1952–1980* 1974.
- No. 73\* Narifumi Maeda, *The Aftereffects of Haji and Kaan Buat*, 1974.
- No. 74\* Shinichi Ichimura, *Japan: the Rising Sun or the Sinking Ship—the Energy Problem and the Food Shortage*, 1974.
- No. 75\* Hiroshi Tsujii, *An Econometric Model of the International Rice Market and Analyses of the National Rice Policies in Thailand, Indonesia, Japan, and the United States*, 1974.
- No. 76\* Yoneo Ishii, Osamu Akagi, and Shigeharu Tanabe, *An Index of Officials in Traditional Thai Governments, Volume I—Part 1: The Law of Civil Hierarchy and The Law of Military and Provincial Hierarchies*, 1974.
- No. 77\* B.A.R. Mokhzani, *Gombak: A Malay Village East of Kuala Lumpur—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia"*, 1974.
- No. 78\* Kunio Yoshihara and Kyoichiro Adachi, *Japanese Direct Industrial Investment in Korea, Hong Kong, Singapore and Taiwan*, 1975.

- No. 79\* Hiroshi Tsujii, *A Quantitative Model of the World Rice Market and Analyses of the National Rice Policies with Special Reference to Thailand, Indonesia, Japan, and the United States*, 1975.
- No. 80 Toru Yano, *Southeast Asia: A Kaleidoscope of Japanese Images*, 1975.
- No. 81\* Shinichi Ichimura and Toru Yano, *The Future Pattern of Japanese Economic and Political Relations with Southeast Asia*, 1975.
- No. 82 Gerard Diffloth, *An Appraisal of Benedict's Views on Austroasiatic and Austro-Thai Relations*, 1976.
- No. 83\* Toru Yano, *The Greater East Asia Co-prosperity Sphere: Setting the Stage for the Cold War in Southeast Asia*, 1975.
- No. 84\* Toru Yano, *ASEAN in the New Setting of Asia: A Japanese View*, 1975.
- No. 85 Kazutake Kyuma, *Paddy Soils in the Mekong Delta of Vietnam*, 1976.
- No. 86\* Hiroyuki Nishimura, *Technical and Socio-Economic Constraints on Farm Development—A Review of the Kinds and Sources of Farmers' Information*, 1976.
- No. 87 Hiroshi Tsujii, *Rice Economy and Rice Policy of South Vietnam, Economic and Statistical Analysis*, 1976.
- No. 88 Gerard Diffloth, *Proto-Mon-Khmer Final Spirants*, 1976.
- No. 89\* Hiroshi Tsujii, *Effect of Climatic Fluctuation on Rice Production in Continental Southeast Asia—A Proposal of a Multidisciplinary Approach—*, 1976.
- No. 90 Mitsuo Ezaki, *Growth Accounting of the Philippines: A Comparative Study of the 1965 and 1969 Input-Output Tables*, 1977.
- No. 91 Gerard Diffloth, *Translation of a Part of A.A. Moskalev's "Grammar of the Chuang Language,"* 1976.
- No. 92 Susumu Yamakage, *Interdependence of the ASEAN Region—The Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970—*, 1977.
- No. 93 Susumu Yamakage, *Extra-Regional Dependence of the ASEAN Region: The Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970*, 1977.
- No. 94 Mitsuo Ezaki, *Growth Accounting of the Philippines: The Demand-for-Output Side*, 1977.
- No. 95 Shigeharu Tanabe, *Historical Geography of the Canal System in the Chao Phraya Delta from the Ayutthaya Period to the Fourth Reign of the Ratanakosin Dynasty*, 1977.
- No. 96 Kyoto University Team (Kazutake Kyuma et al.), *A Study of Padi Cultivation in the State of Sarawak*, 1978.
- No. 97 Kazutake Kyuma, *Paddy Soils in the State of Sarawak, East Malaysia*, 1978.
- No. 98\* Mitsuo Ezaki, *Growth Accounting of Postwar Japan: The Input Side*, 1978.
- No. 99 Yoshihiro Tsubouchi, *Indonesians at Work through Japanese Eyes*, 1978.
- No. 100 Hayao Fukui, *Climate Variability and Agriculture—The Humid Tropics—*, September 1978.
- No. 101 Mitsuo Ezaki, *Linking National Econometric Models of Japan, U.S.A., and the East and Southeast Asian Countries: A Pilot Study*, September 1978.
- No. 102 Shinichi Ichimura, *Argentine Economy and the World Food Market, Especially the Asian Market Ten Year's Perspectives*, October 1978.

No. 103 Hisao Furukawa, *Manual for Field Soil Records* (in preparation).

No. 104 Yasukichi Yasuba, *Another Look at the Tokugawa Heritage with Special Reference to Social Conditions* (in preparation).

京都大学東南アジア研究センター  
京都市左京区吉田下阿達町46  
昭和54年4月1日発行



